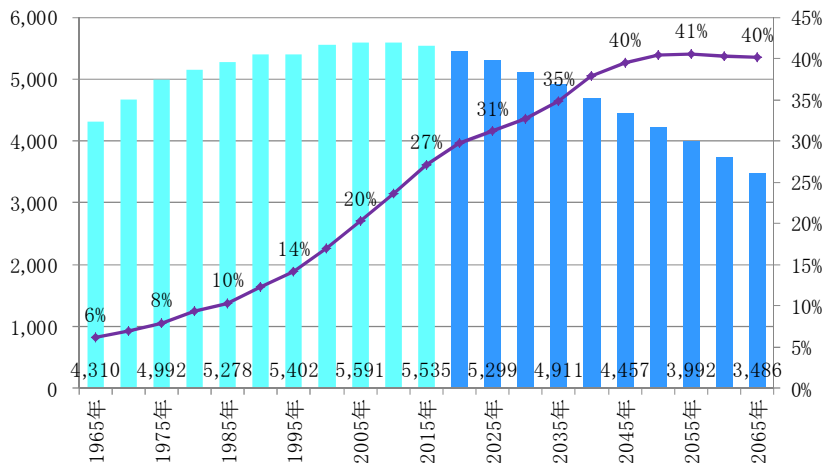


2050年の兵庫像（イメージ）

兵庫県全体（29市12町）

1965～2065年の人口(千人)と65歳以上人口比率の推移(2020年以降は推計)



県内10地域の人口シェアの変化

	2015年	2065年	増減ポイント
神戸	27.8%	26.4%	-1.3
阪神南	18.7%	21.6%	2.9
阪神北	13.0%	14.2%	1.2
東播磨	12.9%	14.9%	1.9
北播磨	4.9%	4.2%	-0.7
中播磨	10.5%	11.2%	0.8
西播磨	4.7%	3.2%	-1.5
但馬	3.1%	1.6%	-1.5
丹波	1.9%	1.3%	-0.7
淡路	2.4%	1.4%	-1.1

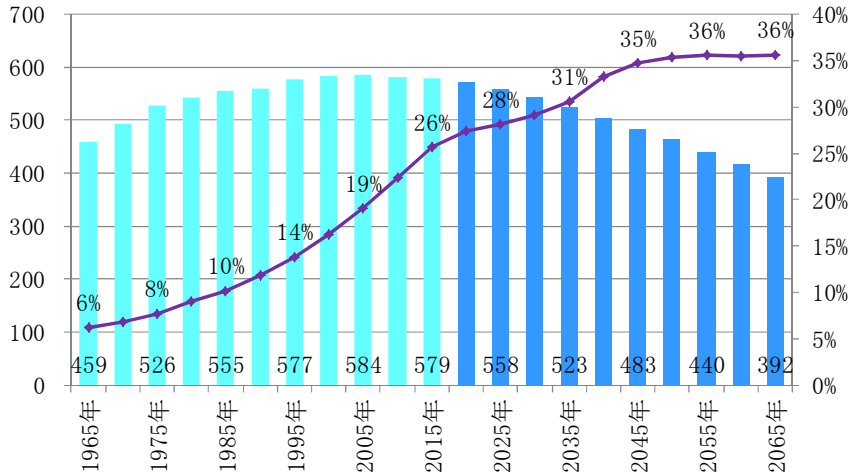
①面積 8,401km²、②人口密度(km²当たり)653人、③世帯数 2,365千戸

当面の基盤整備等	<p>道路: 大阪湾岸道路西伸部、播磨臨海地域道路、山陰近畿自動車道・北近畿豊岡自動車道等の整備</p> <p>空港: 関西3空港の一体運用による最大活用、神戸空港の利便性向上(運用時間延長、国際線就航等)</p> <p>港湾: 阪神港(国際コンテナ戦略港湾)の競争力強化、大型クルーズ船を呼び込むための魅力向上</p> <p>鉄道: リニア中央新幹線(名古屋～大阪:2037年頃開業想定)、北陸新幹線(敦賀～大阪)の整備</p> <p>都市: 三宮再整備、県庁周辺再整備、各地の市街地再開発(JR西宮駅、JR芦屋駅、垂水駅等)</p> <p>学術: 国際観光芸術専門職大学(豊岡:2021年度開学)、スパコン「富岳」(神戸医療産業都市)</p> <p>医療: はりま姫路総合医療センター(仮称)開院、県立西宮病院と西宮市立中央病院の統合</p>
地域の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・県内での人口の偏在化が更に進行(神戸・阪神間と、明石など播磨臨海部への一層の集住化) ・神戸・阪神間では駅前再開発等により住宅供給が続き、大阪を含む周辺地域から人口が流入 ・郊外住宅地ではオールドニュータウン化が進み、再生する住宅地と衰退する住宅地に二極化 ・多自然地域では駅前・高速道路結節点等に生活利便施設が集積し、その周辺部へ人口が集中 ・山間部から順に集落の無人化が進み、山林等が荒廃。山間部の道路の維持は次第に困難に ・多自然地域ではコンビニ、郵便局、銀行、薬局、給油、飲食等が一箇所に集まった生活拠点が形成 ・サイクリング、トレッキングを含め「体験」を楽しむ個人旅行者が増加、特に外国人旅行者が増加 ・二地域居住、多自然居住の受け皿として空き家利用が進む一方、放置空き家が急増し、社会問題化 ・労働力不足により事業活動が困難になる事業所が急増。建設、介護・看護等は外国人頼みの状況に ・多くの市町の経営が困難になり、民間委託、事務組合の組成、県への事務委託などが進む。 ・南海トラフ地震が発生し、県内でも多くの被害が発生。人口減少下での創造的復興の取組が進展
地域づくりの方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・人を引き付ける都市空間の形成(主に大都市)、良質な自然環境の創造と保全(主に多自然地域) ・道路、上下水道、港湾・漁港、教育施設等の社会基盤の維持更新の選択と集中(主に多自然地域) ・地域づくりの阻害要因として深刻化する所有者不明土地や放置空き家の問題への効果的な対応 ・中小企業の生産性向上のための企業統合、事業承継とリカレント教育の普及による人材の流動性向上 ・ICTの活用による生活サービスの高度化、経済のグローバル化やAI時代に対応する人材の育成 ・外国人居住者の増加、介護の必要な高齢者の増加等に対応するユニバーサルな安心社会づくり

中播磨地域（1市3町）

1965～2065年の人口(千人)と65歳以上人口比率の推移(2020年以降は推計)

県内10地域の人口シェアの変化(再掲)



	2015年	2065年	増減ポイント
神戸	27.8%	26.4%	-1.3
阪神南	18.7%	21.6%	2.9
阪神北	13.0%	14.2%	1.2
東播磨	12.9%	14.9%	1.9
北播磨	4.9%	4.2%	-0.7
中播磨	10.5%	11.2%	0.8
西播磨	4.7%	3.2%	-1.5
但馬	3.1%	1.6%	-1.5
丹波	1.9%	1.3%	-0.7
淡路	2.4%	1.4%	-1.1

①865km ² 、②663人、③234千戸	
当面の基盤	<ul style="list-style-type: none"> ○播磨臨海地域道路整備(優先区間[高砂～飾磨BP、飾磨BP～広畑]開通:2038頃まで) ○姫路港旅客ターミナル整備(2022) ○はりま姫路総合医療センター(仮称)開院 ▲南海トラフ地震(震度6強:姫路)
地域の姿	<ul style="list-style-type: none"> ○播磨西部の中心都市として姫路市の存在感が更に上昇 ○高速道路の結節点である福崎IC周辺地区に北部の生活利便施設が集積 ○姫路城をめざす外国人観光客が増加 ▲姫路市内での中心市街地への都市機能の集積と集住化が進行し、郊外は過疎化 ▲内陸の中山間地域(特に旧安富・夢前町域)や離島(家島)は人口減少に歯止めがかからず、実質無人化する地域が拡大 ▲産業構造の変化等でものづくり産業が衰退 ・小規模集落の増加(草刈、防災、見守り等の共助機能の低下)、無人集落の増加 ・空き家や所有者不明土地の増加による生活環境や景観の質の低下 ・財政制約から全ての社会基盤施設の維持が困難化、頻発する土砂災害からの復旧も困難化 ・商業施設、医療施設等の生活利便施設や公共交通機関の縮小・撤退による住民生活の安心感・利便性の低下
地域づくりの方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・姫路城を生かした交流人口の拡大(宿泊客の増加、日本文化体験プログラム展開、ユニークベニューの充実によるMICE誘致、姫路港の瀬戸海クルージング拠点化) ・金属産業の集積を生かした産学官連携による「メタルベルト」の形成、新素材開発推進 ・第二の鹿ノ瀬の整備等による漁業の活性化 ・集落の共助機能の再編、集落空間の整理・再生(所有者不明土地、放置空き家の解消を進めつつ、地域を重点化して活用促進) ・通学、通院、買い物等の移動手段の確保、生活物資調達手段の確保、初等中等教育の質の確保 ・疎住化した中での地域医療や高齢者等ケア体制の確保 ・無人化や担い手不在に対応した新たな県土管理体制の整備(将来の人口配置を見据えた土砂災害対策、野生動物保護管理等)

兵庫県将来推計人口（2015～65 年）

2019 年 11 月 12 日
兵庫県企画県民部
ビジョン局ビジョン課

I はじめに

21 世紀初頭の兵庫のめざす姿を示す、中長期の県政指針「21 世紀兵庫長期ビジョン」（2001 年策定、2011 年改訂）の想定年次（2020 年頃）がまもなく到来する。世界も日本も大きく変化する中であって、今後の兵庫づくりの方向性を県民と共に考え直す時期に来ている。このため本県は、現行ビジョンに代わる新ビジョンの検討に着手した。

新ビジョン検討の前提として、兵庫県の将来の人口の規模と分布をできるだけ客観的・中立的に見通すことが必要となる。本県の将来推計人口は、2015 年 10 月に策定した「兵庫県地域創生戦略」中の「人口の将来展望」が直近のものとなるが、その後、2015 年国勢調査の結果と国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）の新たな将来推計が公表されたことから、これらを活用して、新たな推計を行うこととした。推計結果は、現在進めている地域創生戦略の見直しにおいても、基礎資料となるものである。

推計手法は、前回同様、コーホート要因法を採用し、推計条件（仮定値）は、社人研の新しい推計に準拠しつつ、得られる最新のデータを用いて精査し、独自に設定した。また、将来の多様なシナリオに対応できるよう、複数の仮定値を設定した。具体的には、人口の変動要因である出生、死亡、移動のそれぞれについて、高位、中位、低位の 3 パターンの仮定値を設定し、パターン別の推計を市区町別に実施した。

出生、死亡、移動各中位の推計結果を基準推計として主に活用していくが、そもそも不可知な未来を予測するものであることから、パターン別推計の結果が示す幅の中のどこかに将来の本当の人口が出現しうるものと理解すべきである。

以下に、推計方法と推計結果の概要について報告する。

※推計に当たっては、国立社会保障・人口問題研究所人口構造研究部の小池司朗部長、貴志匡博主任研究官の助言を得た。また、同研究所が発行した次の①②を参照している。以下では①を「全国推計」、②を「地域別推計」と略称する。

- ①「日本の将来推計人口－平成 27（2015）～77（2065）年－」（2017 年 7 月）
- ②「日本の地域別将来推計人口－平成 27（2015）～57（2045）年－」（2018 年 12 月）

推計結果は以下に記した推計手法を十分理解した上でご使用ください。また、推計結果は現時点での仮定に基づくものであり、より新しく、より詳細なデータを用いた推計を行うことを妨げるものではありません。このため、全ての推計結果に加え、仮定値も含めた推計手法の情報提供を電子ファイルで行う準備をしていますので、必要な方は当課までご連絡ください。

<連絡先> ビジョン課 ビジョン班 Tel : 078-362-3072 E-mail : vision@pref.hyogo.lg.jp

Ⅱ 推計方法

1 推計期間

- ・2015～2065年の50年間とした。推計年は2015年から5年間隔とした。
- ・単純な試算による参考値として、基準推計について、2100年まで実施した。

2 推計単位

- ・2019年10月1日現在の市区町別に推計し、その合計値を県推計値とした。

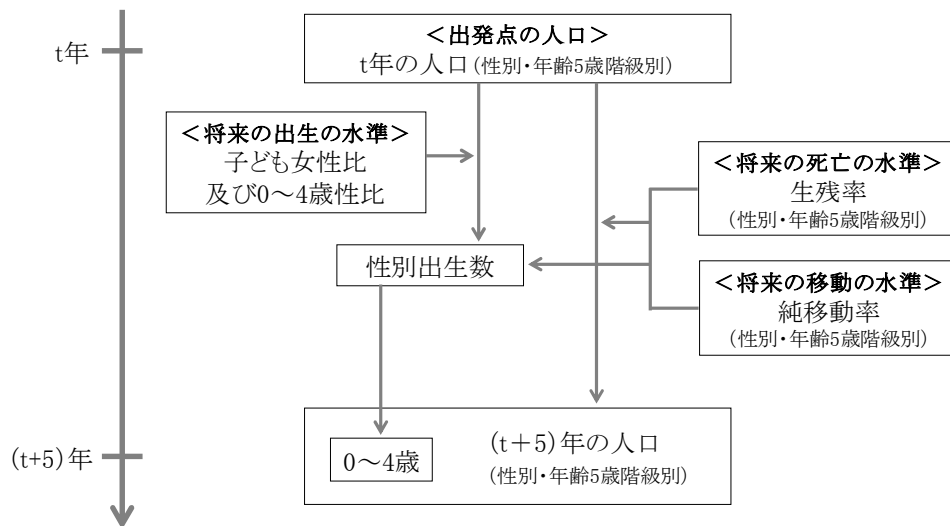
3 推計手法

- ・コーホート要因法¹により性別、年齢5歳階級別の推計値を算出した。

4 推計条件

- ・コーホート要因法の推計手順は【図1】のとおりである。出発点の人口と、将来の出生、死亡、移動の各水準の仮定値を設定する必要がある。

【図1】コーホート要因法による推計手順



(1) 出発点の人口

- ・推計の出発点となる人口（基準人口）は、2015年国勢調査に基づく2015年10月1日現在の市区町別の総人口とした。年齢不詳の人口は年齢5歳階級別に按分した。
- ・パターン別推計では、2020年を出発点とし、基準推計の2020年推計値（県計5,443,409人）を出発点の人口とした。現時点までに公表されている人口の趨勢に照らすと【右表】、実際の2020年の人口は基準推計の2020年推計値に近い値になると判断できるためである。

各年10月1日時点の兵庫県の人口(千人)

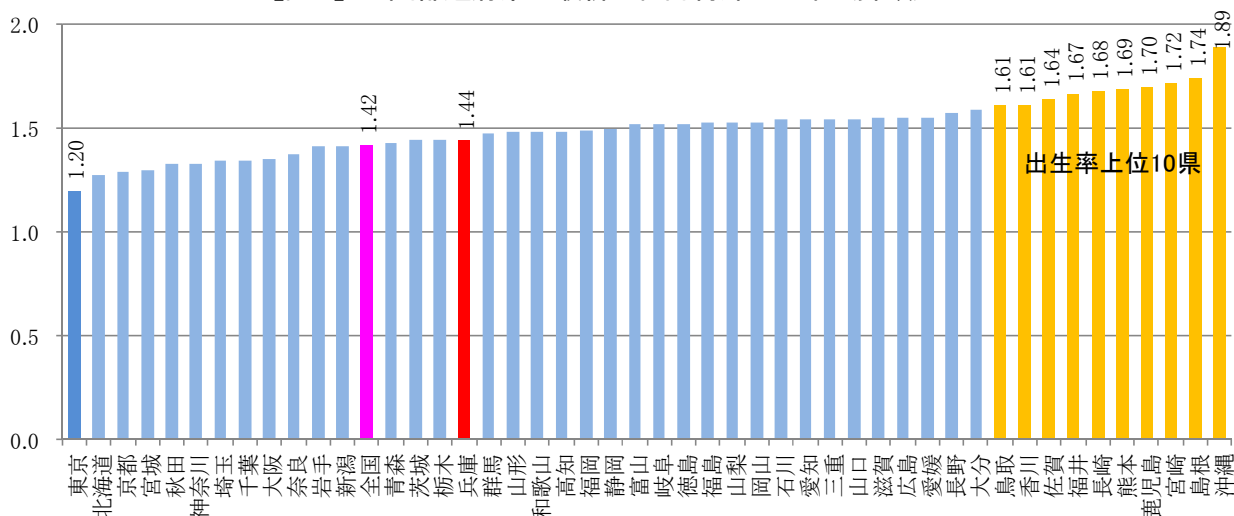
2015年	5,535	国勢調査人口
2016年	5,520	総務省推計人口(前年比▲15千人)
2017年	5,503	総務省推計人口(前年比▲17千人)
2018年	5,484	総務省推計人口(前年比▲19千人)
2019年	5,464	兵庫県推計人口(前年比▲21千人)
2020年	5,443	見込(前年と同数減少と見込み試算)

¹ コーホート (Cohort) とは「同時期に出生した人口集団」のこと。ある年の性別・年齢階級別の人口集団を基準として、この人口集団を変化させる要因（出生・死亡、転入・転出）の仮定値を当てはめて将来人口を推計する手法がコーホート要因法である。

(2) 将来の出生の水準（子ども女性比）

- ・本推計では、将来の出生の水準を示す指標として市区町別の「子ども女性比²」を用いた。市区町別の出生率は年による変動が大きいためである。社人研の地域別推計でも将来の出生の水準は「子ども女性比」で設定している。
- ・将来の出生の水準は、社会経済情勢や政策の影響を受けやすく、正確な予測が困難であることから、社人研の全国推計に準拠して3種類の仮定値を設定した。
 - ①中位：長らく低下傾向にあった本県の出生率は2004年に1.24で底を打った後、回復基調にあるが、近年再び低下の兆しがあり、先行きが見通しにくい。このため、基準となる中位は、概ね「横ばい」と仮定する。合計特殊出生率に換算して県平均1.4台で推移すると仮定するものである。
 - ②高位：過去に経験し、かつ再現可能性のある水準として、2025年までに合計特殊出生率換算で県平均1.6台まで上昇し、以降横ばいに転じると仮定する。現在の全国上位県並みの水準【図2】になると仮定するものである。
 - ③低位：過去に経験し、かつ再現可能性のある水準として、2025年までに合計特殊出生率換算で県平均1.2台まで下降し、以降横ばいに転じると仮定する。現在全国最低の東京都並みの水準【図2】になると仮定するものである。

【図2】全国都道府県の最新の合計特殊出生率（昇順）



出典：2018年人口動態統計月報年計（概数）〔2019.6.7厚生労働省発表〕

- ・なお、市区町別の将来の子ども女性比の仮定値は、2015年の全国の子ども女性比と市区町別の子ども女性比の相対的較差が2045年まで一定で推移すると仮定し、その市区町別の較差の比率を、社人研の全国推計の出生率高位、中位、低位の子ども女性比に乗じて算出した（2045年以降は2045年の子ども女性比が継続と仮定）。
- ・将来の子ども女性比により推計される将来の0～4歳人口を男女に分けるため、0～4歳性比を設定。女兒数100に対して男兒数105.2を全市区町・全期間一律に適用。
- ・参考として市区町別の合計特殊出生率を【表1】に示した。また、合計特殊出生率に換算した県平均の将来の出生の水準の推移を【図3】に示した。

² 子ども女性比とは、0～4歳人口と15～49歳女性人口の比であり、出生率の代替指標として用いられる。

【表1】市区町別の合計特殊出生率の推移

市区町	1990年 (平成2年)	1995年 (平成7年)	2000年 (平成12年)	2005年 (平成17年)	2010年 (平成22年)	2015年 (平成27年)	順位 (市町別)
神戸市	1.38	1.25	1.23	1.15	1.29	1.37	33
東灘区	1.33	1.31	1.26	1.16	1.32	1.51	
灘区	1.15	1.13	1.18	1.09	1.33	1.39	
兵庫区	1.17	1.17	1.16	1.20	1.36	1.42	
長田区	1.29	1.25	1.30	1.28	1.30	1.35	
須磨区	1.40	1.25	1.14	1.08	1.28	1.31	
垂水区	1.59	1.37	1.37	1.27	1.42	1.57	
北区	1.44	1.26	1.20	1.11	1.33	1.34	
中央区	1.09	0.88	1.03	0.97	1.09	1.07	
西区	1.64	1.32	1.34	1.23	1.30	1.32	
阪神南	1.40	1.29	1.35	1.22	1.41	1.49	
尼崎市	1.45	1.36	1.37	1.27	1.51	1.52	21
西宮市	1.36	1.24	1.31	1.20	1.34	1.49	24
芦屋市	1.28	1.08	1.24	1.14	1.32	1.34	36
阪神北	1.44	1.35	1.35	1.20	1.39	1.41	
伊丹市	1.63	1.50	1.50	1.39	1.63	1.57	16
宝塚市	1.37	1.30	1.34	1.17	1.34	1.44	28
川西市	1.22	1.09	1.20	1.12	1.30	1.36	34
三田市	1.55	1.56	1.38	1.08	1.24	1.27	39
猪名川町	1.44	1.17	1.19	1.09	1.24	0.94	41
東播磨	1.59	1.46	1.43	1.27	1.48	1.56	
明石市	1.60	1.48	1.47	1.30	1.48	1.58	15
加古川市	1.55	1.48	1.42	1.24	1.50	1.56	17
高砂市	1.70	1.45	1.41	1.36	1.53	1.52	21
稲美町	1.47	1.09	1.24	1.13	1.11	1.36	34
播磨町	1.61	1.54	1.28	1.07	1.45	1.66	7
北播磨	1.64	1.51	1.49	1.33	1.37	1.52	
西脇市	1.75	1.63	1.64	1.43	1.73	1.68	4
三木市	1.38	1.23	1.21	1.07	1.15	1.34	36
小野市	1.61	1.51	1.63	1.44	1.48	1.63	8
加西市	1.88	1.65	1.47	1.37	1.23	1.46	25
加東市	1.66	1.63	1.69	1.56	1.52	1.68	4
多可町	1.73	1.79	1.67	1.37	1.35	1.45	26
中播磨	1.63	1.50	1.55	1.36	1.54	1.59	
姫路市	1.62	1.51	1.55	1.37	1.55	1.59	13
市川町	1.60	1.24	1.50	1.33	1.02	1.34	36
福崎町	1.64	1.34	1.45	1.20	1.52	1.60	12
神河町	1.99	1.78	1.76	1.27	1.39	1.52	21
西播磨	1.74	1.60	1.52	1.38	1.48	1.50	
相生市	1.49	1.37	1.31	1.30	1.52	1.59	13
赤穂市	1.72	1.51	1.61	1.26	1.40	1.43	29
宍粟市	2.15	1.73	1.82	1.64	1.58	1.56	17
たつの市	1.66	1.45	1.39	1.29	1.42	1.53	20
太子町	1.63	1.51	1.57	1.50	1.79	1.56	17
上郡町	1.83	1.67	1.40	1.51	1.22	1.18	40
佐用町	1.90	1.86	1.76	1.31	1.30	1.42	31
但馬	1.92	1.85	1.84	1.69	1.84	1.68	
豊岡市	1.82	1.75	1.85	1.63	1.94	1.71	3
養父市	2.11	1.90	1.86	1.85	1.73	1.62	9
朝来市	1.95	1.80	1.84	1.68	1.72	1.67	6
香美町	2.00	2.09	1.78	1.72	1.84	1.82	2
新温泉町	2.05	2.17	1.90	1.80	1.76	1.43	29
丹波	1.92	1.75	1.77	1.41	1.60	1.54	
丹波篠山市	1.78	1.50	1.59	1.31	1.45	1.45	26
丹波市	2.00	1.89	1.89	1.49	1.69	1.61	11
淡路	1.87	1.65	1.52	1.44	1.58	1.62	
洲本市	1.80	1.68	1.59	1.52	1.67	1.41	32
南あわじ市	1.88	1.72	1.51	1.51	1.71	1.83	1
淡路市	1.94	1.54	1.47	1.29	1.37	1.62	9
兵庫県	1.53	1.41	1.38	1.25	1.41	1.48	
全国	1.54	1.42	1.36	1.26	1.39	1.45	

注1 市区町の数値は、兵庫県が国勢調査結果及び人口動態統計調査結果に基づき算出したものである。

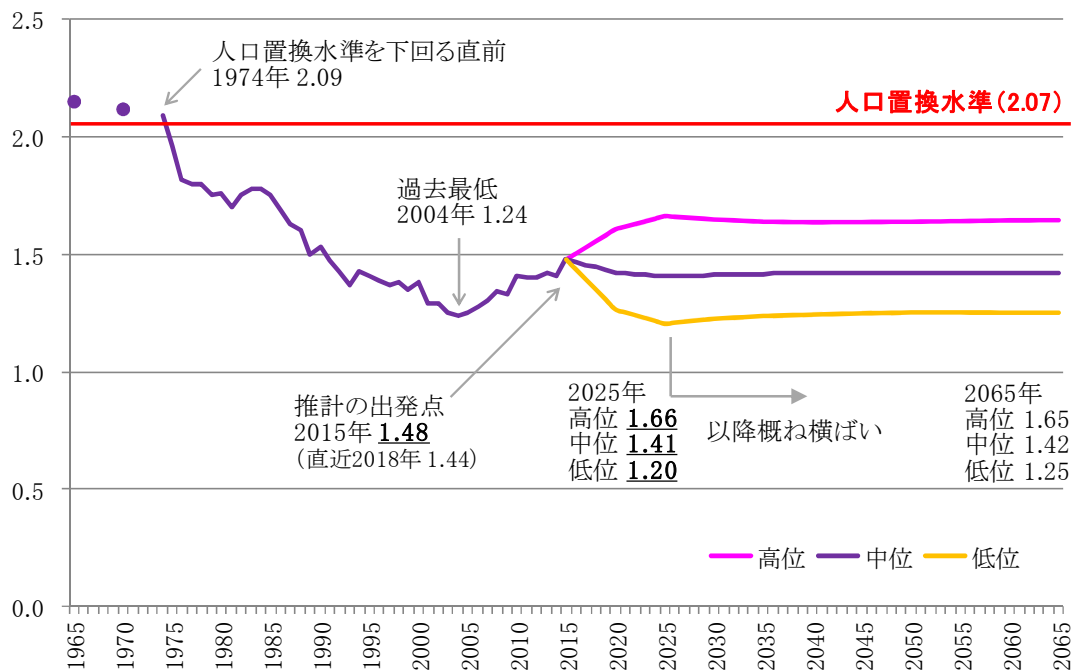
注2 全国、兵庫県及び神戸市(区を除く)の数値は、厚生労働省が算出し公表したものである。

注3 市区町の数値は、年齢別女子人口「国勢調査人口(総務省統計局)」

1985,90,95年:総人口(外国人除く)・2005,10年:年齢・国籍不詳を按分した日本人口(兵庫県で按分)

2000年:日本人口(不詳を除く)・2015年:年齢・国籍不詳を按分した人口(参考表)の日本人口(国で按分)

【図3】 合計特殊出生率換算した将来の出生の水準の推移（兵庫県）



(3) 将来の死亡の水準（生残率）

- ・将来の死亡の水準は市区町別の「生残率³」により設定。なお、平均寿命【表2】を見ても分かる通り、生残率の市区町別の差異は、出生率ほど大きくない。
- ・兵庫県民の平均寿命は、過去50年間上昇の一途にあり、県民の健康志向と医療技術の発展により、今後も上昇が続くと見込まれる。問題はその程度であるが、本推計では以下の考え方により3種類の仮定値を設定した。

①中位：社人研の地域別推計の仮定値を援用。ただし、社人研仮定値をそのまま用いると、2015～20年の死亡数が実勢より多くなる（直近3ヵ年で確認）ため、実際の死亡数の水準に合うように市区町別に補正係数を算出し、これを全期間の社人研仮定値に一律に乗じて、本推計における生残率の仮定値とした。社人研の地域別推計の仮定値は、全国推計の中位の仮定値に相当し、今後50年で平均寿命が県平均で男4.20年、女4.37年（10年当たり男0.84年、女0.87年）伸びることを意味している【表3】。

②高位：兵庫県民の平均寿命の伸びは、過去50年間で10年当たり男2.53年、女2.72年、直近の10年では男2.20年、女1.45年であり【図4】、中位の仮定値が保守的過ぎるとの見方も可能である。そこで、社人研の全国推計における生残率高位（平均寿命が更に上昇）に準拠し、今後50年の平均寿命の伸びが県平均で中位+約1年となる仮定値を設定した。これは兵庫県民の平均寿命が全国最上位県並みになることを意味するものである【表3】。

③低位：比較対象とするため、死亡の水準が現状のまま続くと仮定した（2015～20年の生残率を固定）。

³ 本推計における生残率とは、ある年齢の人口が5年後まで生き残る確率のことをいう。

【表2】市区町別の平均寿命

	2005(平成17)年		2015(平成27)年		順位(市町別)			2005(平成17)年		2015(平成27)年		順位(市町別)		
	男	女	男	女	男	女		男	女	男	女	男	女	
神戸	神戸市	78.8	85.7	80.9	87.0	21	27	北播磨 加西市	78.4	85.5	81.2	87.2	11	18
	東灘区	80.0	86.2	81.9	87.4			加東市	78.0	85.3	81.3	87.3	8	11
	灘区	79.0	86.1	81.6	87.2			多可町	78.9	85.3	81.3	87.3	8	11
	兵庫区	77.0	84.6	78.7	85.9			中播磨 姫路市	77.9	84.9	80.1	86.6	39	37
	長田区	77.0	85.1	78.9	85.8			市川町	78.4	85.4	80.8	86.9	22	34
	須磨区	79.1	86.1	81.1	87.6			福崎町	78.7	85.6	81.0	87.3	17	11
	垂水区	79.1	85.6	80.8	87.1			神河町	77.8	85.5	81.1	87.5	13	7
	北区	79.3	86.0	81.4	87.3			西播磨 相生市	77.8	85.6	81.1	87.1	13	21
	中央区	77.4	85.2	80.6	86.8			赤穂市	79.1	86.0	81.0	87.3	17	11
	西区	79.8	86.0	81.5	87.4			宍粟市	77.6	85.7	80.3	86.8	37	35
阪神南	尼崎市	77.6	84.6	79.8	86.3	41	41	たつの市	78.2	85.5	79.9	86.7	40	36
	西宮市	79.5	85.7	81.9	87.7	5	3	太子町	78.9	85.5	81.0	87.1	17	21
	芦屋市	79.4	86.1	82.1	87.7	3	3	上郡町	78.4	86.2	81.1	87.0	13	27
阪神北	伊丹市	79.2	85.7	81.2	87.0	11	27	佐用町	78.1	86.1	80.7	87.2	28	18
	宝塚市	80.1	86.3	82.3	87.8	1	1	但馬 豊岡市	78.8	85.9	80.3	87.1	37	21
	川西市	80.0	86.9	82.3	87.5	1	7	養父市	78.9	85.9	80.8	87.4	22	9
	三田市	80.1	86.5	82.0	87.7	4	3	朝来市	79.1	86.6	81.0	87.1	17	21
	猪名川町	80.4	88.7	81.8	87.8	6	1	香美町	78.1	86.1	80.5	87.3	31	11
東播磨	明石市	78.5	85.4	80.7	87.0	28	27	新温泉町	78.4	86.3	80.8	87.4	22	9
	加古川市	78.6	85.5	81.1	86.6	13	37	丹波 篠山市	78.6	85.6	80.8	87.3	22	11
	高砂市	78.3	85.4	80.4	86.6	35	37	丹波市	78.1	85.7	80.8	87.3	22	11
	稲美町	78.6	85.5	80.6	87.0	30	27	淡路 洲本市	78.2	85.1	80.8	86.5	22	40
	播磨町	78.1	85.0	80.5	87.0	31	27	南あわじ市	78.3	85.7	80.5	87.1	31	21
北播磨	西脇市	78.9	85.5	80.5	87.2	31	18	淡路市	78.2	85.6	80.4	87.1	35	21
	三木市	79.3	86.1	81.5	87.6	7	6	兵庫県	78.7	85.6	80.9	87.1		
	小野市	78.6	86.0	81.3	87.0	8	27	全国	78.6	85.5	80.8	87.0		

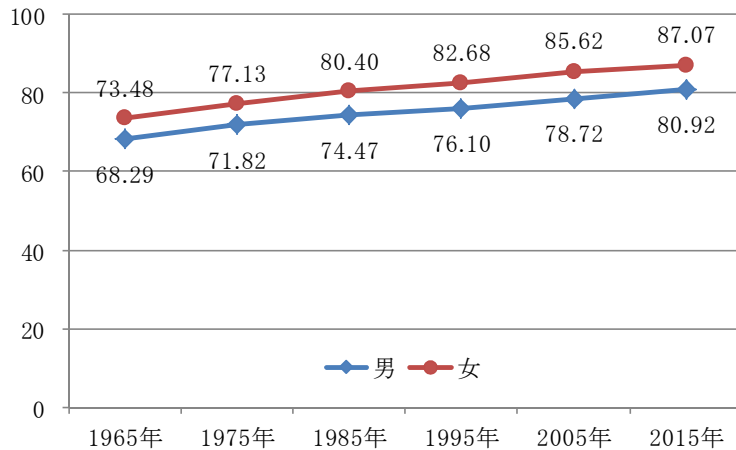
出典：市区町の数値は「市区町別生命表」、兵庫県の数値は「都道府県別生命表」、全国の数値は「完全生命表」による。

【表3】平均寿命の実績値と社人研の全国推計における仮定値との比較

平均寿命〔単位：年〕		男		女	
2015年 (実績)	全国	80.75	—	86.98	—
	本県	80.92	ほぼ全国平均並み(全国18位)	87.07	ほぼ全国平均並み(全国25位)
	最上位県	81.78	滋賀県：本県より0.86年長い	87.67	長野県：本県より0.60年長い
2065年 (推計)	生残率中位 (全国)	84.95	2015年から4.20年延伸	91.35	2015年から4.37年延伸
	(本県試算値)	85.12		91.44	
	生残率高位 (全国)	86.05	2015年から5.30年延伸 (生残率中位より1.10年長い)	92.48	2015年から5.50年延伸 (生残率中位より1.13年長い)
	(本県試算値)	86.22		92.57	

出典：全国は社人研全国推計。本県及び最上位県は平成27年都道府県別生命表（厚生労働省）

【図4】兵庫県民の平均寿命の推移〔単位：年〕



出典：平成27年都道府県別生命表（厚生労働省）

(4) 将来の移動の水準（純移動率）

- ・将来の移動の水準を市区町別の「純移動率⁴」により設定。
- ・純移動率は、国内外の社会経済情勢や政策の影響を受けやすく、正確な予測が困難であることから、以下の考え方で3種類の仮定値を設定した。

《近年の社会移動（転出入）の趨勢》

- ・本県の社会移動の総量は減少局面にある【図5】。主な理由は、①生活水準の向上（生活様式の均質化）、②サービス経済化（就業構造の均質化）、③移動効率の上昇（転居の必要性の低下）、④人口減少・高齢化（移動率の高い若者の減少、移動率の低い高齢者の増加）である。構造的な要因によるもので、今後も続く可能性が高いため、将来の社会移動の総量は、抑制的に見積もるのが妥当である。
- ・本県の社会移動は、1980年代後半からのバブル景気により転入超過に転じたが、バブル崩壊後はこれも落ち着き、2000年代以降、転出入均衡から転出超過へと推移し、現在に至っている。近年、転出超過は縮小の兆しがある【図6】【表4】。
- ・近年顕著なのは、外国人の転入超過である。外国人人口は本県人口の未だ2%を占めるに過ぎないが、近年緩やかに増加しており【図7】【表4】、長期的にはこの傾向が続く可能性が高い。ただ、就労・就学目的の在住者が多く、国際情勢、入国管理政策、災害等の影響で大きく変動し得るものであるため、将来の外国人人口を正確に見積もるのは難しい。社人研も、外国人人口の将来推計の必要性は認識しつつも実施には至っておらず、総人口の内数として処理している。
- ・社人研の地域別推計における純移動率の仮定値は、基本的に2010～15年の市区町村別の社会移動の趨勢を踏まえて設定されている。2015年以降の本県の実勢には合わない点があるため、補正する必要がある。

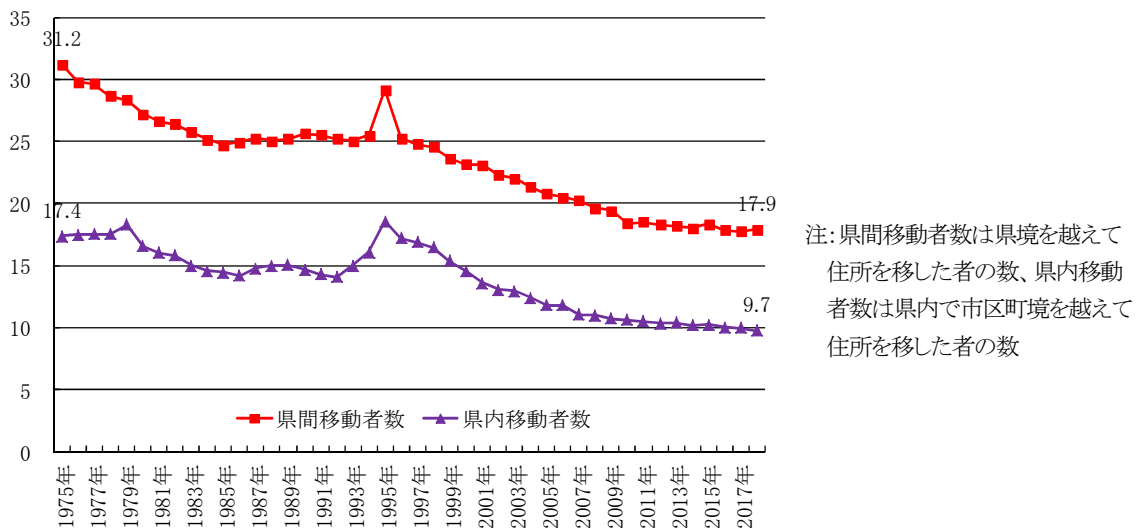
《仮定設定の考え方》

- ①中位：以上を総合的に勘案し、中位の純移動率は、社人研地域別推計の仮定値を補正して設定。社人研仮定値をそのまま用いると2015～20年の純移動数が実勢に比して過大に算出されるため、この期間の市区町別の純移動数⁵の推定値に合うように社人研仮定値を一律に補正。2025年までに転出超過が解消し、以降転入超過が年1～3千人の規模で続く結果となる仮定値である。
- ②高位：県内市区町の純移動率を高めに見積もっている社人研地域別推計の仮定値をそのまま援用。2020年までに転出超過が解消し、以降転入超過が年3～5千人の規模で続く結果となる仮定値である。
- ③低位：2012～18年の各年の市区町別の純移動数の3ヵ年平均の最低値に合うように社人研地域別推計の仮定値を一律に補正。2035年までに転出超過は解消するが、以降の転入超過は年1千人未満の規模に止まる仮定値である。

⁴ ある地域の転入超過数が地域の人口に占める割合。(期間中の転入者数－転出者数)÷期首人口により算出。

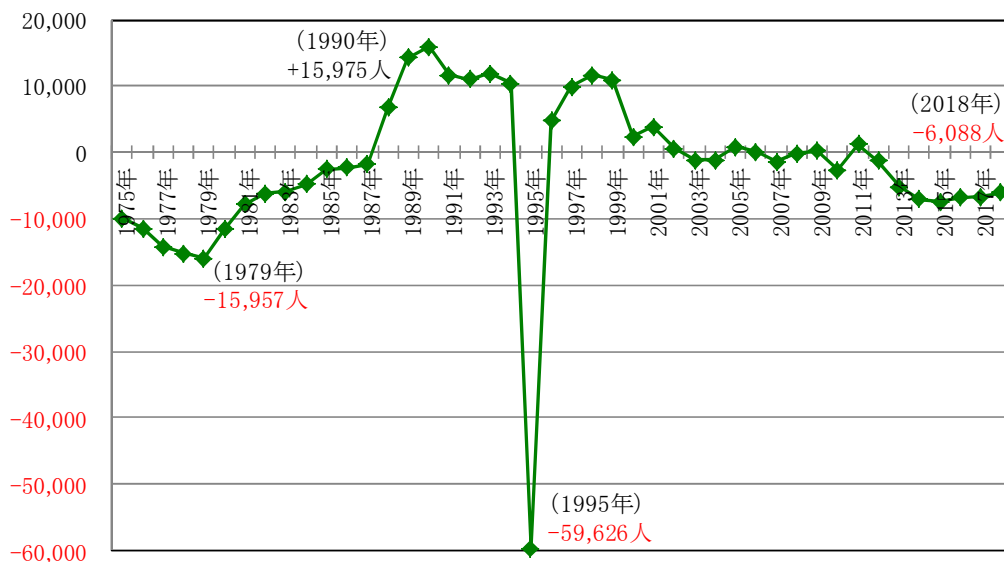
⁵ 近年県全体では純移動数が増加（転出超過が縮小）傾向にあるが、市区町別の純移動数は年による変動が大きく、一定の傾向を読み取るのが困難なため、2015～2018年の4ヵ年の純移動数から2015～20年の市区町別の純移動数を推定し、これに合うように社人研地域別推計の純移動率の仮定値を一律に補正した。なお、この期間の変動が突出して多い西宮市（2016→17年：-1,014人）と明石市（2016→17年：+1,673人）は、他市町と同様の補正を行うのが適切でないため、非現実的な推計結果にならないよう、個別に補正を行った。

【図5】本県の社会移動（県間移動者数、県内移動者数）の推移〔単位：万人〕



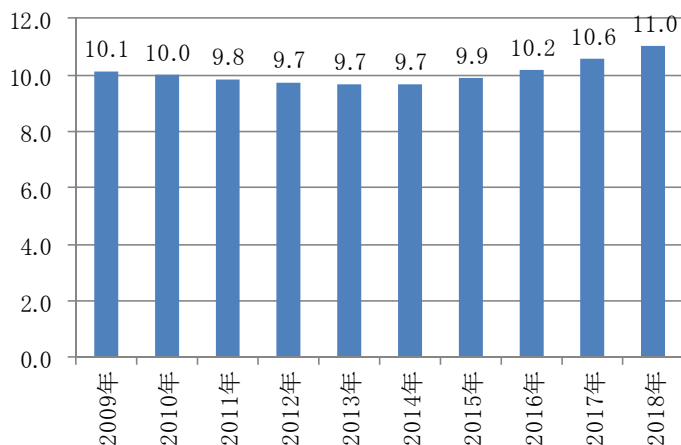
出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」。

【図6】本県の社会移動（純移動数）の推移〔単位：人〕



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

【図7】在留外国人人数（兵庫県）〔単位：万人〕



出典：兵庫県国際交流課調べ

【表4】2015年国勢調査時点以降の本県の人口の動き

総人口[各年10月1日時点]及びその増減 単位:人

人口	2015年	2016年	2017年	2018年
総数	5,534,800	5,519,963	5,503,111	5,484,375
日本人	5,456,154	5,438,076	5,417,248	5,393,806
外国人	78,646	81,887	85,863	90,569
増減数	2015→16年		2016→17年	
総数	-14,837		-16,852	
日本人	-18,078		-20,828	
外国人	3,241		3,976	

増減内訳

【2015→16年】

単位:人

自然増減(総数)			自然増減(日本人)			自然増減(外国人)		
出生	死亡	増減	出生	死亡	増減	出生	死亡	増減
44,009	55,454	-11,445	43,490	54,822	-11,332	519	632	-113
社会増減(総数)			社会増減(日本人)			社会増減(外国人)		
転入	転出	増減	転入	転出	増減	転入	転出	増減
92,472	98,802	-6,330	86,877	93,651	-6,774	5,595	5,151	444
入国	出国	増減	入国	出国	増減	入国	出国	増減
130,980	128,042	2,938	43,521	44,144	-623	87,459	83,898	3,561
小計			小計			小計		
223,452	226,844	-3,392	130,398	137,795	-7,397	93,054	89,049	4,005
計			計			計		
267,461	282,298	-14,837	173,888	192,617	-18,729	93,573	89,681	3,892

【2016→17年】

自然増減(総数)			自然増減(日本人)			自然増減(外国人)		
出生	死亡	増減	出生	死亡	増減	出生	死亡	増減
42,463	57,343	-14,880	41,970	56,667	-14,697	493	676	-183
社会増減(総数)			社会増減(日本人)			社会増減(外国人)		
転入	転出	増減	転入	転出	増減	転入	転出	増減
91,763	97,927	-6,164	85,103	91,892	-6,789	6,660	6,035	625
入国	出国	増減	入国	出国	増減	入国	出国	増減
138,721	134,529	4,192	44,364	44,489	-125	94,357	90,040	4,317
小計			小計			小計		
230,484	232,456	-1,972	129,467	136,381	-6,914	101,017	96,075	4,942
計			計			計		
272,947	289,799	-16,852	171,437	193,048	-21,611	101,510	96,751	4,759

【2017→18年】

自然増減(総数)			自然増減(日本人)			自然増減(外国人)		
出生	死亡	増減	出生	死亡	増減	出生	死亡	増減
40,632	58,144	-17,512	40,132	57,428	-17,296	500	716	-216
社会増減(総数)			社会増減(日本人)			社会増減(外国人)		
転入	転出	増減	転入	転出	増減	転入	転出	増減
92,874	99,034	-6,160	85,407	92,204	-6,797	7,467	6,830	637
入国	出国	増減	入国	出国	増減	入国	出国	増減
145,611	140,675	4,936	44,723	44,651	72	100,888	96,024	4,864
小計			小計			小計		
238,485	239,709	-1,224	130,130	136,855	-6,725	108,355	102,854	5,501
計			計			計		
279,117	297,853	-18,736	170,262	194,283	-24,021	108,855	103,570	5,285

出典:総務省推計人口。増減数と増減内訳の日本人、外国人の数値の不一致は国籍異動によるもの

Ⅲ 推計結果

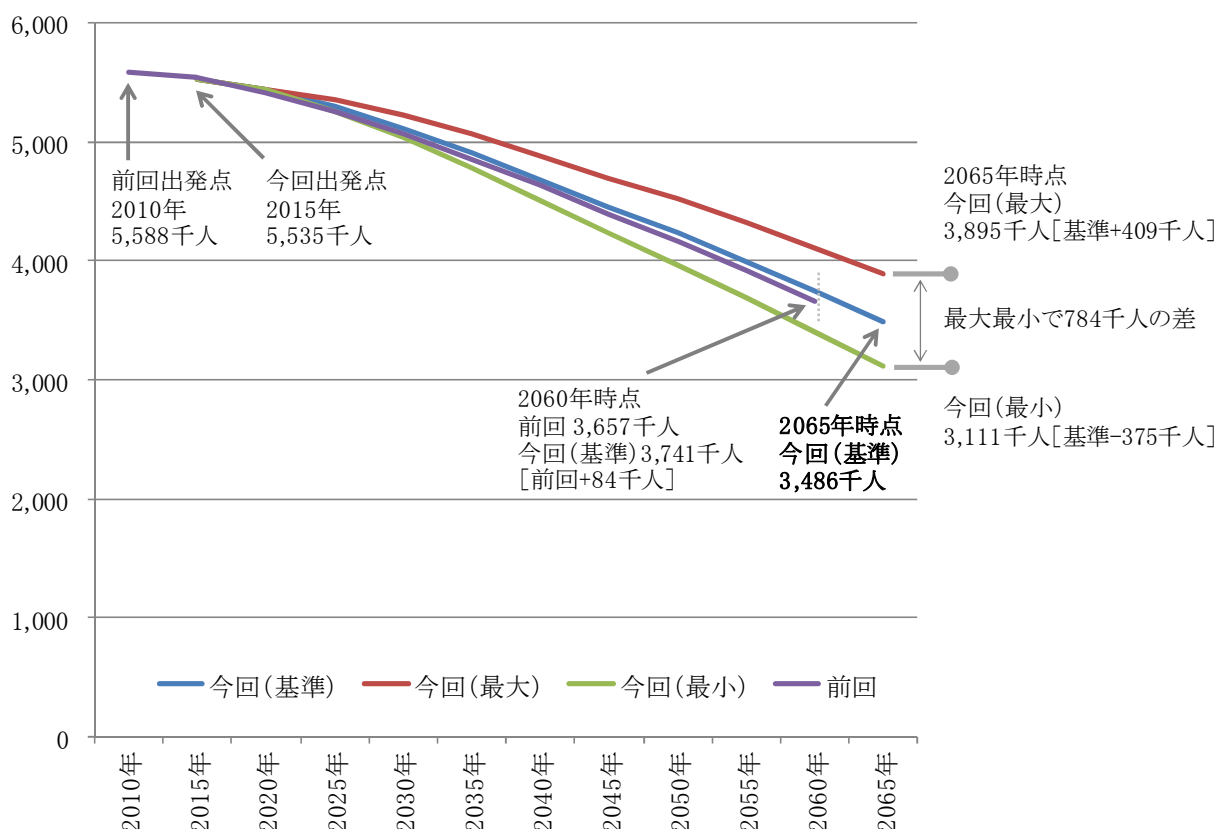
1 全県

(1) 総人口

① 基準推計及び最大・最小推計【図8】【表5】

- ・今回、出生、死亡、移動について、それぞれ高位、中位、低位の仮定値を設定してパターン別の推計を行った。各中位の仮定値による推計を「基準推計」とし、最大値を示す各高位、最小値を示す各低位の推計結果と合わせて紹介する。
- ・便宜上「基準」が必要であるとしても、本来的には、特に出生と移動の水準が今後大きく変動する可能性があることから、本県の将来人口はパターン別推計結果の最大値と最小値の幅の中のどこかに収まると解するのが適当である。
- ・基準推計の結果は、前回推計より若干上振れする結果となった（2060年時点で+84千人）。今回、出生率中位の仮定値を、実勢に照らして、前回推計の仮定値（出生率概ね1.35が継続すると仮定）より若干高めに設定したことがその主たる要因である。

【図8】 基準推計等の結果〔単位：千人〕



【表5】 基準推計等の結果〔単位：千人〕

		2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2065年対2015年	
														差分	比率
今回	基準 a			5,443	5,299	5,118	4,911	4,686	4,457	4,231	3,992	3,741	3,486	-2,049	63.0%
	最大		5,535	5,443	5,351	5,222	5,062	4,885	4,701	4,516	4,319	4,109	3,895	-1,640	70.4%
	最小			5,443	5,259	5,034	4,779	4,506	4,231	3,962	3,684	3,397	3,111	-2,424	56.2%
前回 b		5,588	5,538	5,418	5,253	5,067	4,857	4,633	4,398	4,162	3,915	3,657			
b-a			3	-25	-46	-52	-54	-53	-59	-69	-77	-84			

<増減の内訳>

- ・基準推計及び最大・最小推計の増減内訳（5年間毎の年平均）を【表6】に示す。
- ・基準推計の2015～20年の増減内訳は、直近の趨勢に概ね対応している。最大・最小推計の内訳からは人口増減に対する出生数の寄与度の高さが窺われる。

【表1】基準推計等の5年単位の増減内訳

基準推計(各中位)		単位:千人										
		2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
総人口		5,535	5,443	5,299	5,118	4,911	4,686	4,457	4,231	3,992	3,741	3,486
年平均	自然増減	-17	-29	-37	-43	-48	-47	-48	-50	-53	-54	
	出生数	41	36	34	32	30	28	26	24	22	21	
	死亡数	-57	-65	-71	-76	-78	-76	-74	-74	-75	-75	
	社会増減	-1.7	0.1	0.8	1.8	3.1	1.8	2.2	2.5	2.7	2.8	
	増減計	-18	-29	-36	-42	-45	-46	-45	-48	-50	-51	
最大推計(各高位)		2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
総人口		5,535	5,443	5,351	5,222	5,062	4,885	4,701	4,516	4,319	4,109	3,895
年平均	自然増減	-19	-21	-29	-36	-41	-40	-40	-43	-46	-47	
	出生数	46	43	41	39	38	36	34	33	32	31	
	死亡数	-66	-64	-70	-75	-78	-76	-75	-76	-77	-77	
	社会増減	1.2	2.7	3.2	4.1	5.1	3.3	3.5	3.7	3.8	3.7	
	増減計	-18	-19	-26	-32	-35	-37	-37	-39	-42	-43	
最小推計(各低位)		2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
総人口		5,535	5,443	5,259	5,034	4,779	4,506	4,231	3,962	3,684	3,397	3,111
年平均	自然増減	-16	-36	-45	-51	-56	-56	-54	-56	-58	-58	
	出生数	36	31	30	28	26	24	21	19	17	16	
	死亡数	-52	-67	-74	-79	-82	-79	-76	-75	-75	-73	
	社会増減	-2.2	-1.2	-0.5	0.5	1.8	0.6	0.6	0.5	0.5	0.5	
	増減計	-18	-37	-45	-51	-55	-55	-54	-56	-57	-57	

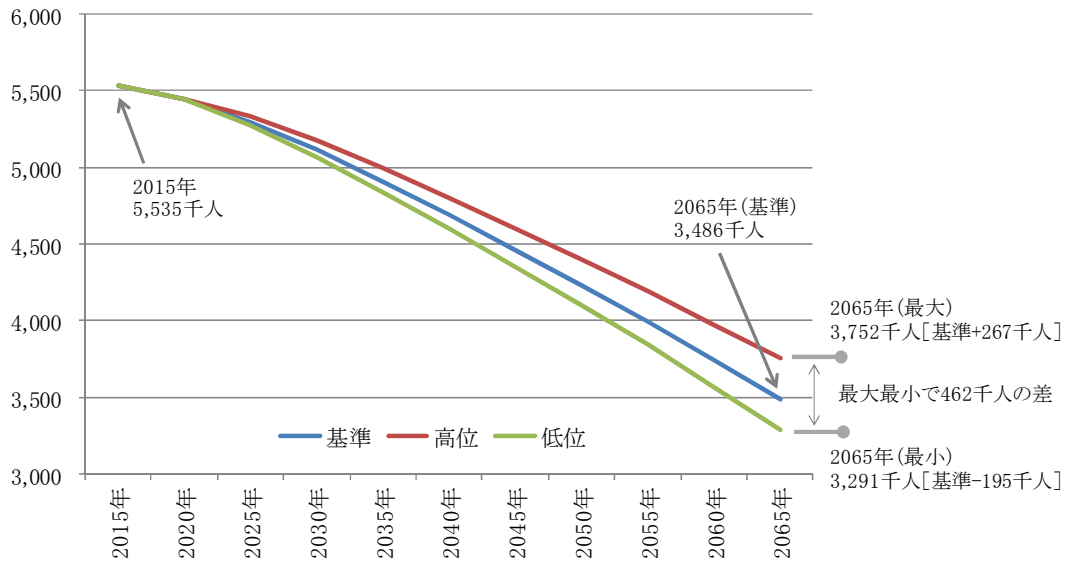
② パターン別推計

- ・将来人口に対する出生、死亡、移動各項目の寄与度を観察するため、その他2つの項目を中位に固定し、1項目のみ高位、低位に変える推計を実施した【表7】【図9】。
 [出生] 合計特殊出生数が中位の想定から約0.2ポイント上がる（県平均1.4台→1.6台）ことで50年後の人口に26.7万人の差が生じる結果となった。
 [死亡] 平均寿命が中位の想定から約1年伸びる（男85.12→86.22、女91.44→92.57）ことで50年後の人口に3.4万人の差が生じる結果となった。
 [移動] 2020年までに転出超過が解消し、以降転入超過が年3～5千人の規模で続くとすれば50年後の人口に9.5万人の差が生じる結果となった。
- ・今回の仮定値設定を前提とした考察とはなるが、将来人口の増減に対する寄与度は「出生」が高く、「移動」「死亡」の寄与度は限定的であることが読み取れる。

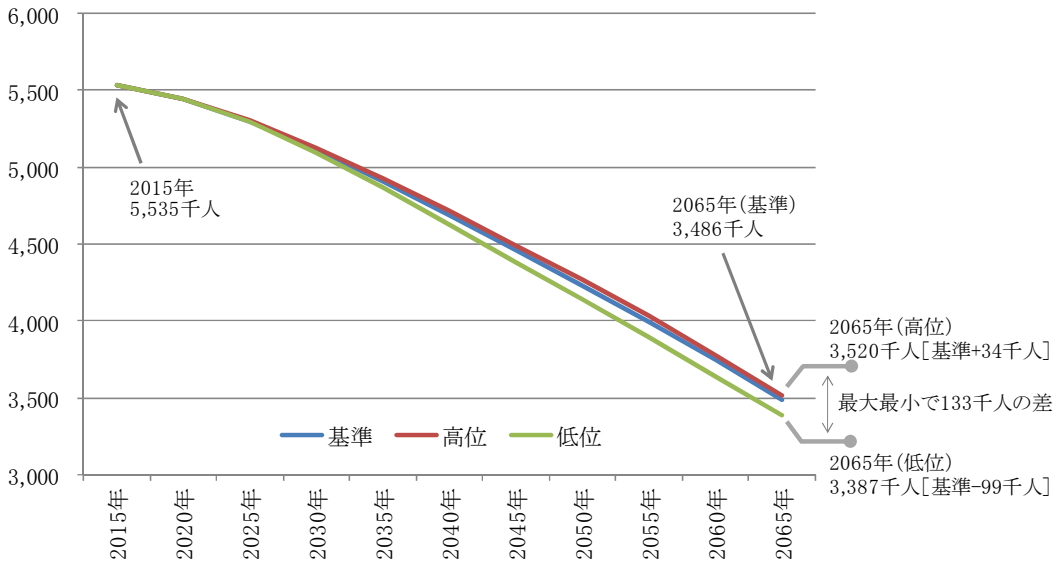
【表7】出生、死亡、移動のパターン別推計結果

		2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
基準推計 a			5,443	5,299	5,118	4,911	4,686	4,457	4,231	3,992	3,741	3,486
出生 (子ども女性比)	高位 b		5,443	5,332	5,180	4,998	4,800	4,598	4,399	4,191	3,973	3,752
	b-a		0	33	62	87	114	141	169	199	232	267
	低位 c		5,443	5,273	5,070	4,842	4,596	4,348	4,101	3,842	3,569	3,291
	c-a		0	-26	-48	-69	-89	-109	-129	-150	-172	-195
死亡 (生残率)	高位 b		5,443	5,303	5,131	4,933	4,715	4,492	4,268	4,030	3,778	3,520
	b-a		0	4	12	22	29	35	37	38	36	34
	低位 c		5,443	5,291	5,097	4,871	4,628	4,381	4,141	3,894	3,639	3,387
	c-a		0	-8	-22	-40	-58	-76	-89	-98	-102	-99
移動 (純移動率)	高位 b		5,443	5,314	5,147	4,951	4,739	4,521	4,304	4,074	3,831	3,581
	b-a		0	15	28	41	53	63	73	82	89	95
	低位 c		5,443	5,293	5,105	4,890	4,657	4,420	4,183	3,934	3,671	3,403
	c-a		0	-6	-13	-21	-29	-38	-47	-58	-70	-83

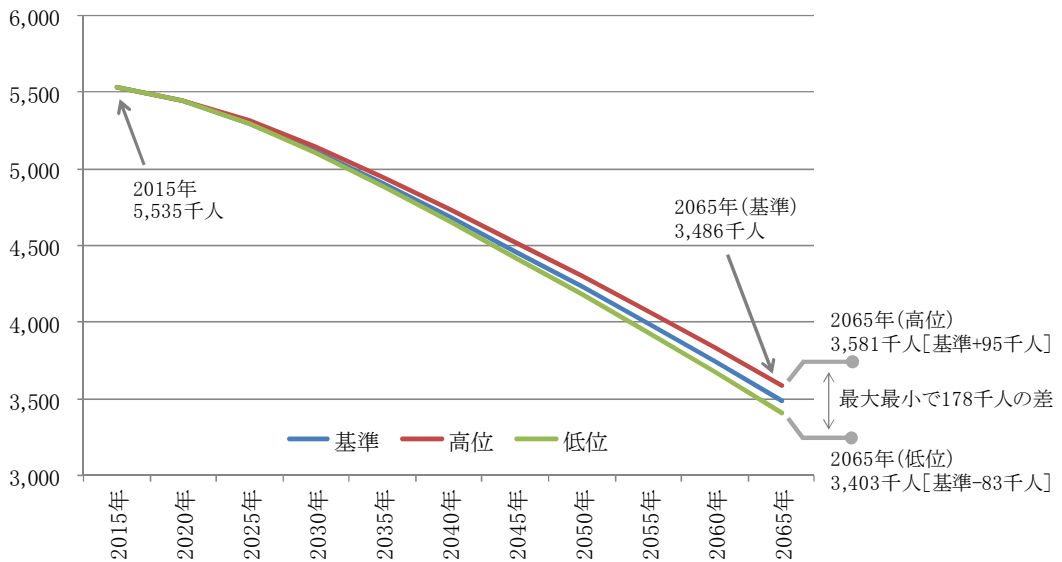
【図 9-1】パターン別推計結果（出生）



【図 9-2】パターン別推計結果（死亡）



【図 9-3】パターン別推計結果（移動）



(2) 年齢別人口【図 10】 ※基準推計ベース

① 0～14 歳

- ・ 2015 年の 710 千人から 2065 年には 339 千人（15 年比 48%）まで減少する。
- ・ 比率は 12.8%（2015 年）から 9.7%（2065 年）へ低下する。

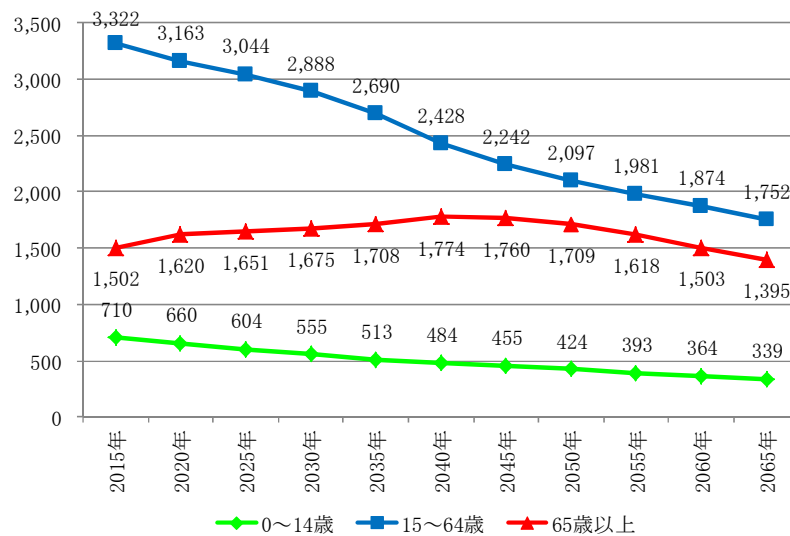
② 15～64 歳

- ・ 2015 年の 3,322 千人から 2065 年には 1,752 千人（15 年比 53%）まで減少する。
- ・ 比率は 60.0%（2015 年）から 50.3%（2065 年）へ低下する。

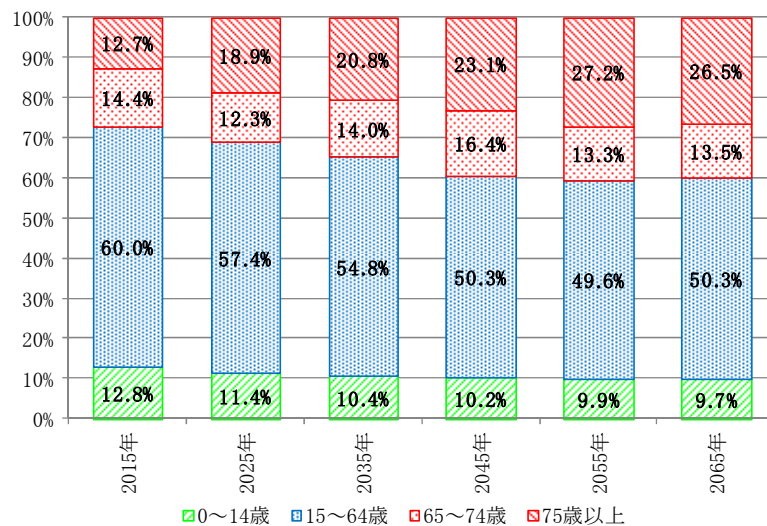
③ 65 歳以上

- ・ 2015 年の 1,502 千人から 2040 年の 1,774 千人（15 年比 118%）まで増加した後、減少に転じ、2065 年には 1,395 千人（15 年比 93%）となる。
- ・ 比率は 27.1%（2015 年）から 40.0%（2065 年）へ上昇する。
- ・ また、75 歳以上は、2015 年の 705 千人から 2050 年の 1,099 千人（15 年比 156%）まで増加した後、減少に転じ、2065 年には 925 千人（15 年比 131%）となる。
- ・ 比率は 12.7%（2015 年）から 26.5%（2065 年）へ上昇する。

【図 10-1】 基準推計の推計結果（年齢別人口）



【図 10-2】 基準推計の推計結果（年齢別人口比率）



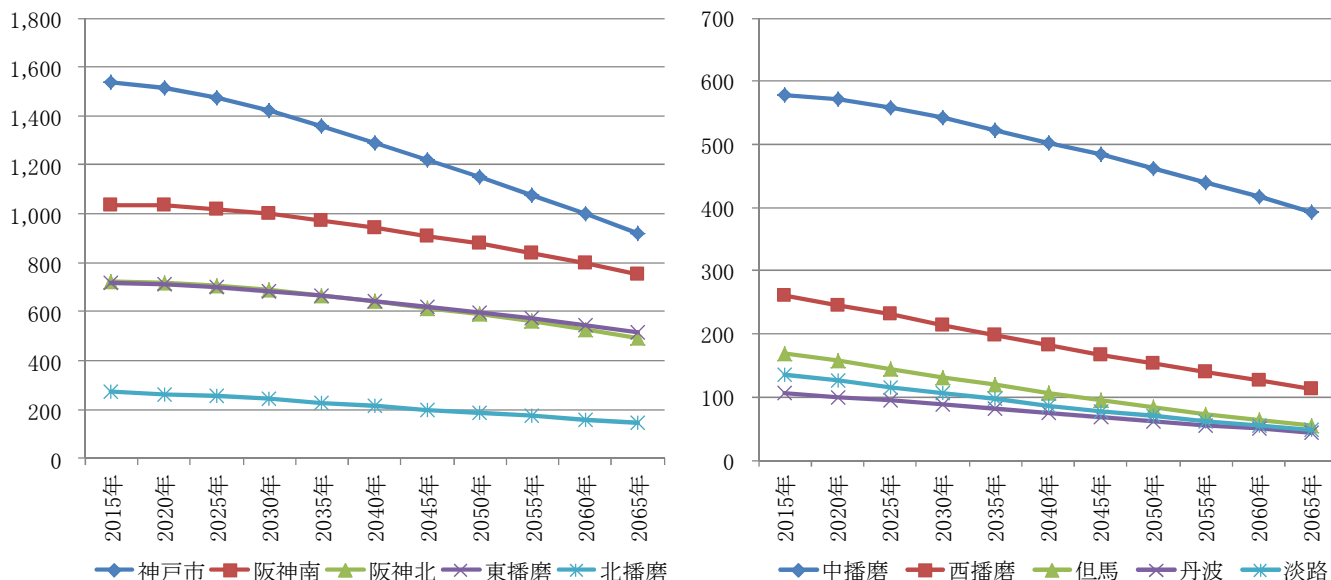
2 地域別人口 ※基準推計ベース

(1) 総人口

① 地域別（現在本県が置いている10の県民局・県民センター別）

- ・2015年以降すべての地域において一貫して人口が減り続ける【図11】。
- ・2015～65年の50年間の人口減少率が高い地域は、但馬（68%減）、淡路（65%減）、丹波（58%減）、西播磨（57%減）、北播磨（46%減）の順となった。

【図11】地域別人口の推計結果



② 市区町別

- ・神戸市中央区、伊丹市、明石市では今後しばらく人口が増加する。神戸市中央区は2015年比12%増となる2035年頃、伊丹市は2015年比2%増となる2025年頃、明石市は2015年比3%増となる2030年頃をピークに人口減少に転じる。
- ・2065年時点の人口が2015年を上回る市区町はない。すべての市区町で2065年までに人口が減少する。
- ・市区町別人口減少率は総じて神戸、阪神、播磨臨海部で低く、播磨内陸部、但馬、淡路で高いが【表8】、神戸、阪神、播磨臨海部でも人口が半減する市区町が現れる【表9】。人口の偏在化が、隣り合う地域間に大きな差をもたらしながら、加速度的に進んでいく状況が想定される。

【表8】市区町別の人口減少率
（低い順、高い順、
各10市区町）

市区町名	増減率	市区町名	増減率
中央区	-2%	佐用町	-82%
明石市	-5%	香美町	-82%
伊丹市	-12%	養父市	-79%
播磨町	-19%	多可町	-77%
兵庫区	-20%	新温泉町	-76%
尼崎市	-22%	上郡町	-76%
太子町	-23%	市川町	-75%
姫路市	-30%	宍粟市	-74%
宝塚市	-31%	神河町	-73%
西宮市	-31%	洲本市	-67%

【表9】地域別・市区町別推計結果一覧

	総人口(単位:千人)											対15年比 2065年
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	
兵庫県	5,535	5,443	5,299	5,118	4,911	4,686	4,457	4,231	3,992	3,741	3,486	63.0%
神戸地域(神戸市)	1,537	1,514	1,474	1,421	1,359	1,289	1,218	1,148	1,076	1,000	921	59.9%
東灘区	214	213	210	205	199	191	183	175	165	155	145	67.7%
灘区	136	136	134	131	127	122	117	112	106	99	92	67.5%
兵庫区	107	106	105	103	101	99	97	94	92	89	85	79.9%
長田区	98	94	90	86	82	77	73	69	65	60	55	56.3%
須磨区	162	157	150	142	133	124	115	107	98	90	81	50.1%
垂水区	219	214	207	198	188	177	167	157	147	136	126	57.2%
北区	220	210	198	185	170	155	141	127	113	100	86	39.2%
中央区	135	143	148	151	151	150	148	145	142	137	132	98.0%
西区	246	240	231	221	208	193	178	163	148	133	119	48.3%
阪神南地域 a	1,036	1,033	1,019	998	971	941	911	878	840	798	753	72.7%
尼崎市	453	450	444	436	426	416	406	395	382	367	352	77.7%
西宮市	488	488	482	471	457	441	423	405	384	361	336	68.9%
芦屋市	95	95	93	91	88	85	82	78	74	70	65	68.0%
阪神北地域 b	722	719	707	689	667	642	616	590	560	528	496	68.7%
伊丹市	197	200	201	200	198	195	192	189	184	179	173	88.0%
宝塚市	225	225	222	217	210	203	196	188	178	167	156	69.4%
川西市	156	153	147	140	132	125	117	110	103	95	87	55.4%
三田市	113	111	108	104	100	94	88	82	76	70	64	56.8%
猪名川町	31	30	29	28	26	25	23	21	19	17	16	50.7%
【参考】阪神 a+b	1,757	1,751	1,726	1,687	1,638	1,584	1,527	1,468	1,401	1,326	1,248	71.0%
東播磨地域 c	717	712	701	685	665	642	619	596	572	545	518	72.3%
明石市	293	300	303	304	303	301	298	295	291	285	279	95.2%
加古川市	267	261	252	242	229	216	203	190	176	162	148	55.3%
高砂市	91	87	83	78	73	68	63	59	54	50	45	49.6%
稲美町	31	30	29	28	27	25	24	23	21	20	19	59.7%
播磨町	34	34	34	33	33	32	31	30	29	28	27	81.3%
北播磨地域 d	272	264	254	242	229	215	200	187	173	159	146	53.6%
西脇市	41	39	37	35	32	30	28	25	23	21	19	46.4%
三木市	77	75	72	68	64	60	55	51	47	43	39	51.1%
小野市	49	48	47	45	44	42	40	38	36	34	32	65.6%
加西市	44	43	42	40	38	35	33	30	28	26	24	53.5%
加東市	40	40	40	39	38	36	35	33	31	29	27	67.7%
多可町	21	19	17	16	14	12	10	8.7	7.3	6.0	4.9	22.9%
【参考】播磨東 c+d	989	977	955	927	894	857	820	783	745	705	664	67.2%
中播磨地域 e	579	571	558	541	523	503	483	463	440	417	392	67.7%
姫路市	536	530	519	506	490	473	456	438	418	396	374	69.8%
市川町	12	11	10	9.0	8.0	6.9	6.0	5.1	4.4	3.7	3.1	24.9%
福崎町	20	19	19	18	17	16	15	15	14	13	12	59.2%
神河町	11	11	10	8.6	7.7	6.8	5.9	5.1	4.4	3.7	3.1	27.4%
西播磨地域 f	260	246	231	215	199	183	167	153	139	126	113	43.4%
相生市	30	29	27	25	23	21	20	18	17	16	14	47.2%
赤穂市	49	45	42	39	35	32	29	26	23	20	17	35.1%
宍粟市	38	34	31	28	25	22	19	16	14	12	10	26.3%
たつの市	77	74	71	67	63	59	55	51	47	43	39	50.6%
太子町	34	34	33	33	32	31	30	29	28	27	26	76.7%
上郡町	15	14	13	11	10	8.6	7.4	6.3	5.3	4.4	3.7	24.0%
佐用町	18	16	14	12	10	8.8	7.3	6.0	4.9	3.9	3.1	17.6%
【参考】播磨西 e+f	839	817	789	756	722	686	651	616	580	542	505	60.2%
但馬地域	170	157	145	132	120	107	95	84	74	64	55	32.2%
豊岡市	82	77	72	67	62	56	51	45	40	36	31	37.5%
養父市	24	22	19	17	15	13	11	9.1	7.6	6.2	5.0	20.7%
朝来市	31	29	27	25	23	21	19	17	16	14	12	39.8%
香美町	18	16	14	12	11	9.0	7.6	6.3	5.1	4.1	3.2	17.9%
新温泉町	15	13	12	11	10	8.3	7.1	6.0	5.1	4.3	3.5	23.9%
丹波地域	106	101	95	88	82	75	68	62	56	50	44	41.6%
丹波篠山市	41	40	38	35	33	30	28	25	23	21	19	44.8%
丹波市	65	61	57	53	49	45	40	36	33	29	26	39.5%
淡路地域	135	126	116	107	97	88	78	70	62	55	48	35.3%
洲本市	44	41	38	34	31	28	25	22	19	17	14	32.5%
南あわじ市	47	44	41	38	35	32	29	26	23	21	18	38.8%
淡路市	44	41	38	35	31	28	25	22	20	17	15	44.1%

*市区町別の推計結果は千人未満の単位を四捨五入しているため、その計は表示している地域別の計に一致しない場合がある。

(2) 年齢別人口【表 10】【図 12】

① 0～14 歳

・実数、比率とも全地域で減少する。特に但馬、淡路の減少が著しい。

② 15～64 歳

・実数、比率とも全地域で減少する。特に但馬、淡路の減少が著しい。

③ 65 歳以上

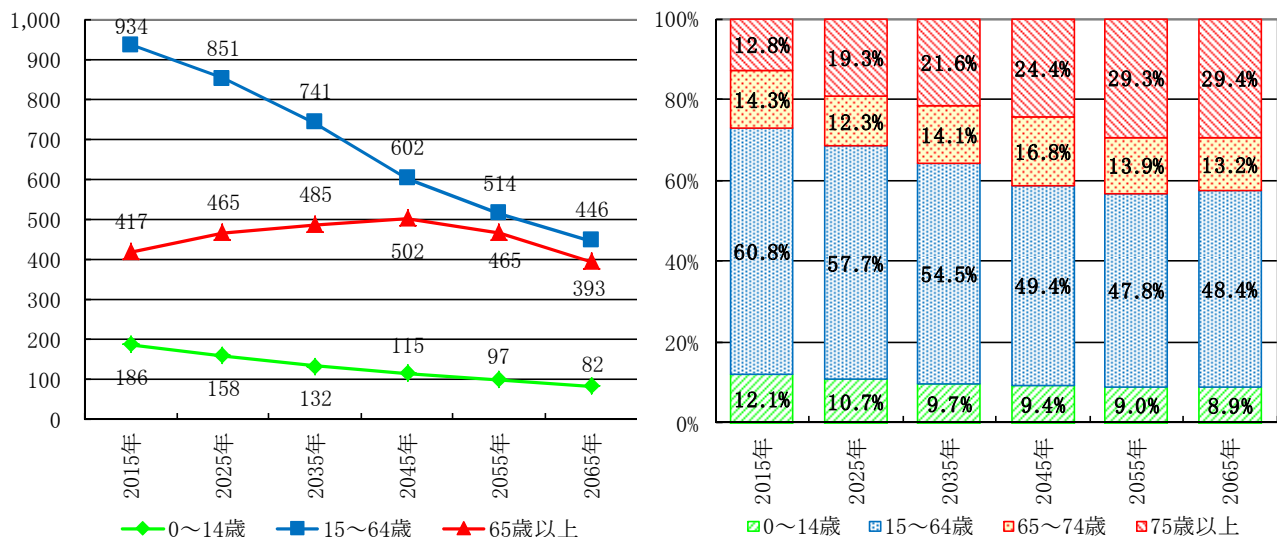
・全地域で比率が上昇する。阪神南、阪神北、東播磨では実数も増加する。

・75 歳以上人口の比率も全地域で上昇する。実数は西播磨、但馬、丹波、淡路以外の地域で増加し、特に神戸、阪神南、阪神北、東播磨の増加が著しい。

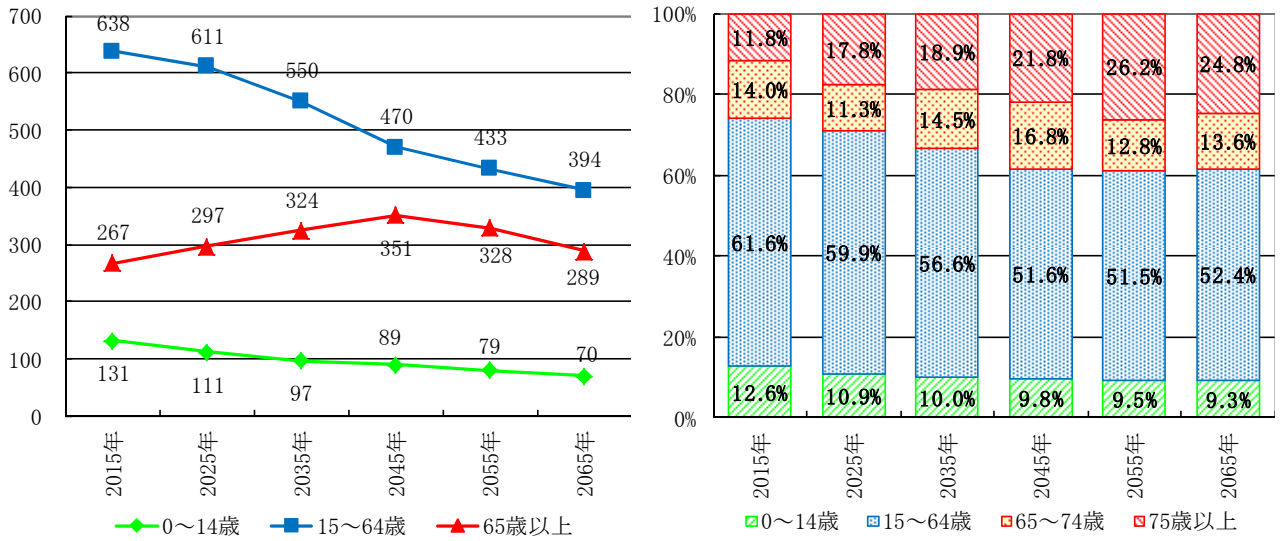
【表 10】地域別の年齢別人口比較

	人口(千人)			総人口に占める比率		人口(千人)			総人口に占める比率	
	2015年	2065年	対15年比	2015年	2065年	2015年	2065年	対15年比	2015年	2065年
	0～14歳					15～64歳人口				
神戸	186	82	44%	12.1%	8.9%	934	446	48%	60.8%	48.4%
阪神南	131	70	53%	12.6%	9.3%	638	394	62%	61.6%	52.4%
阪神北	97	51	52%	13.5%	10.3%	436	245	56%	60.5%	49.4%
東播磨	98	58	59%	13.6%	11.2%	436	279	64%	60.8%	53.8%
北播磨	34	13	37%	12.6%	8.7%	157	70	45%	57.7%	48.2%
中播磨	81	43	53%	13.9%	10.9%	350	210	60%	60.4%	53.5%
西播磨	33	11	32%	12.8%	9.5%	148	52	35%	56.7%	46.0%
但馬	21	3.9	19%	12.4%	7.2%	92	19	21%	54.0%	35.2%
丹波	13	4.0	30%	12.5%	9.1%	58	17	30%	55.0%	39.4%
淡路	16	3.8	24%	11.7%	8.1%	73	19	27%	53.9%	40.6%
計	710	339	48%	12.8%	9.7%	3,322	1,752	53%	60.0%	50.3%
	65歳以上					75歳以上				
神戸	417	393	94%	27.1%	42.6%	197	271	138%	12.8%	29.4%
阪神南	267	289	106%	25.8%	38.4%	123	187	151%	11.8%	24.8%
阪神北	188	200	106%	26.1%	40.3%	86	135	157%	12.0%	27.3%
東播磨	183	181	103%	25.5%	35.0%	79	114	149%	11.0%	22.0%
北播磨	81	63	78%	29.7%	43.1%	39	42	107%	14.4%	28.8%
中播磨	149	140	94%	25.7%	35.6%	68	87	127%	11.8%	22.1%
西播磨	79	50	63%	30.5%	44.5%	38	34	89%	14.7%	30.3%
但馬	57	32	55%	33.6%	57.6%	32	23	73%	18.5%	41.7%
丹波	34	23	66%	32.5%	51.5%	18	16	87%	17.3%	36.0%
淡路	46	24	53%	34.4%	51.3%	25	17	69%	18.3%	36.0%
計	1,502	1,395	93%	27.1%	40.0%	705	925	131%	12.7%	26.5%

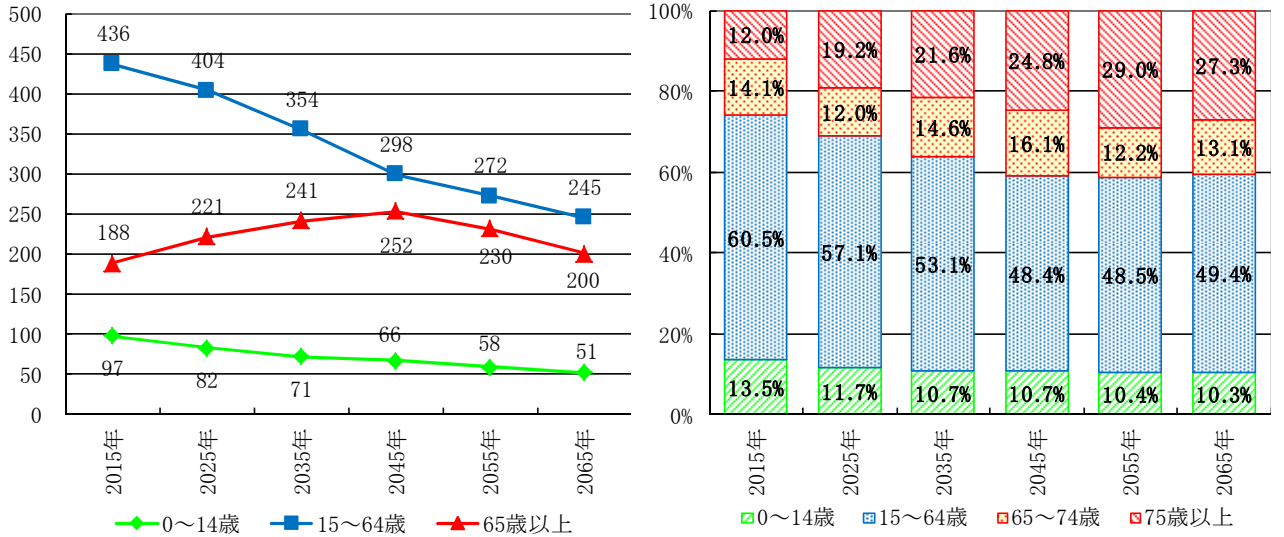
【図 12-1】神戸市



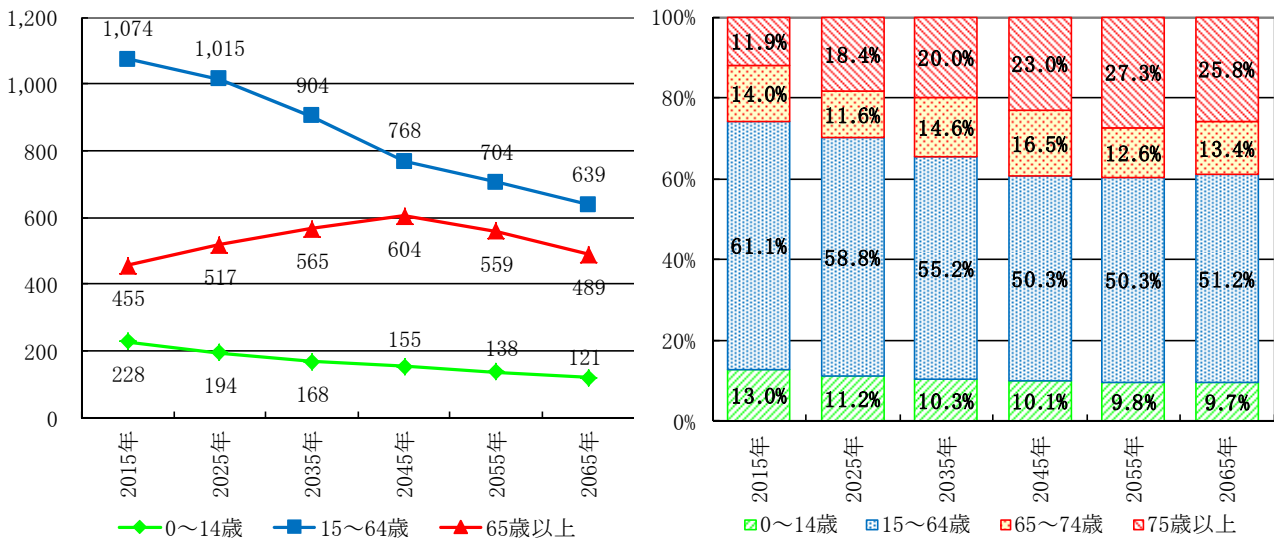
【图 12-2】阪神南



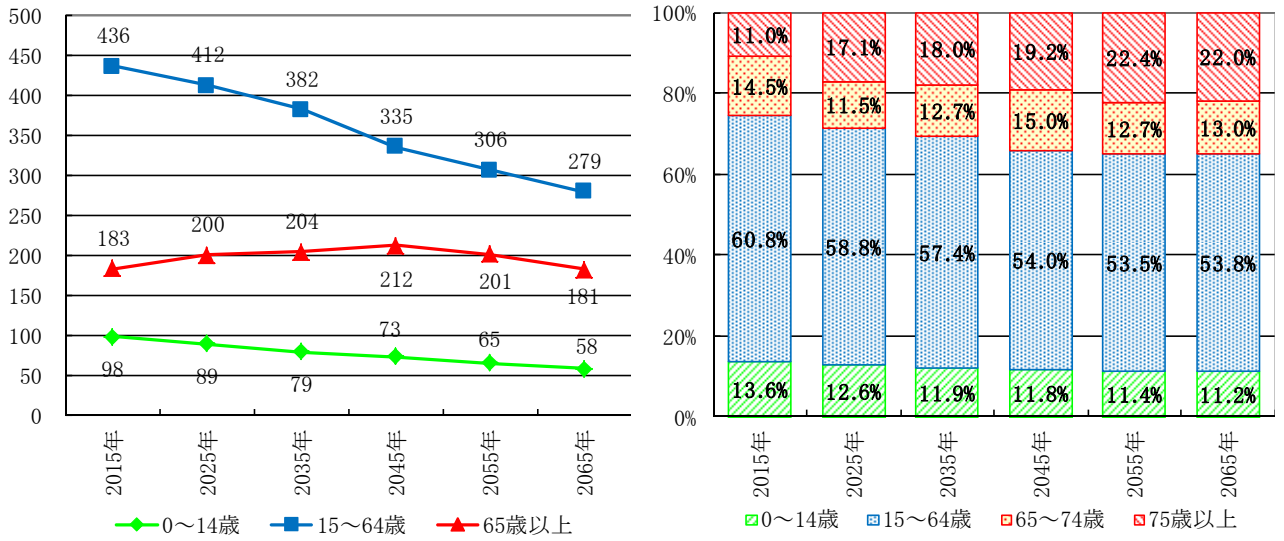
【图 12-3】阪神北



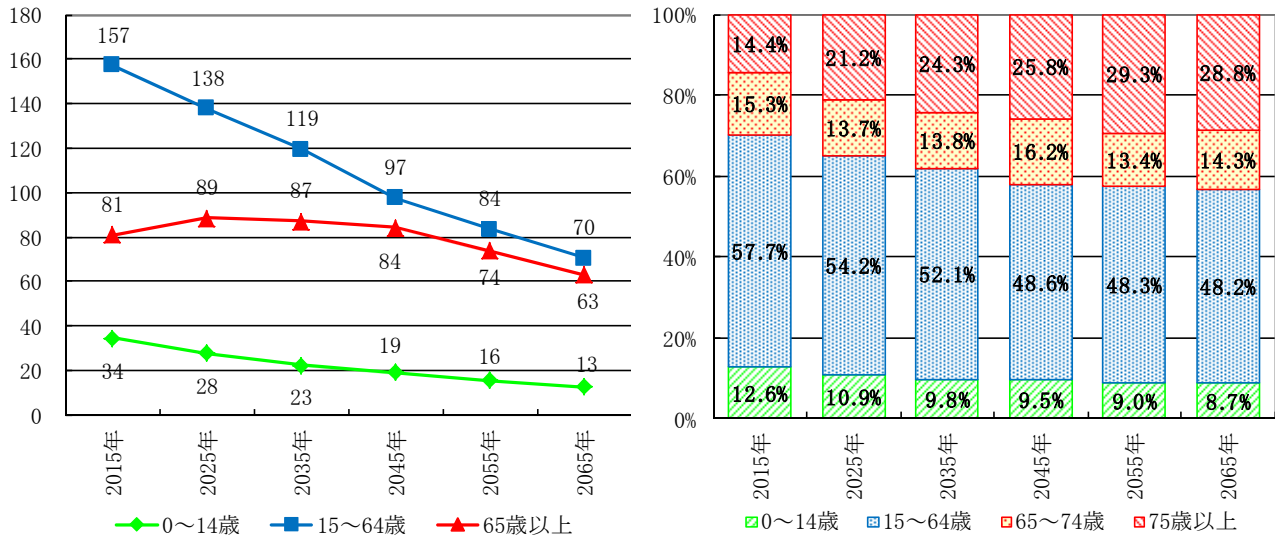
【图 12-4】阪神（阪神南+阪神北）《参考》



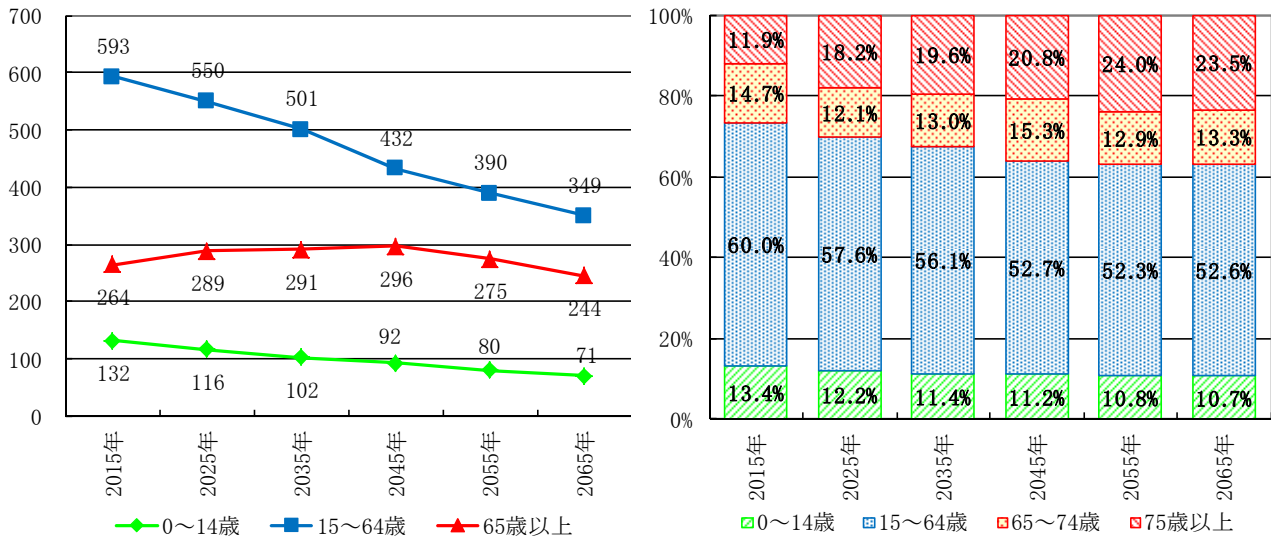
【图 12-5】東播磨



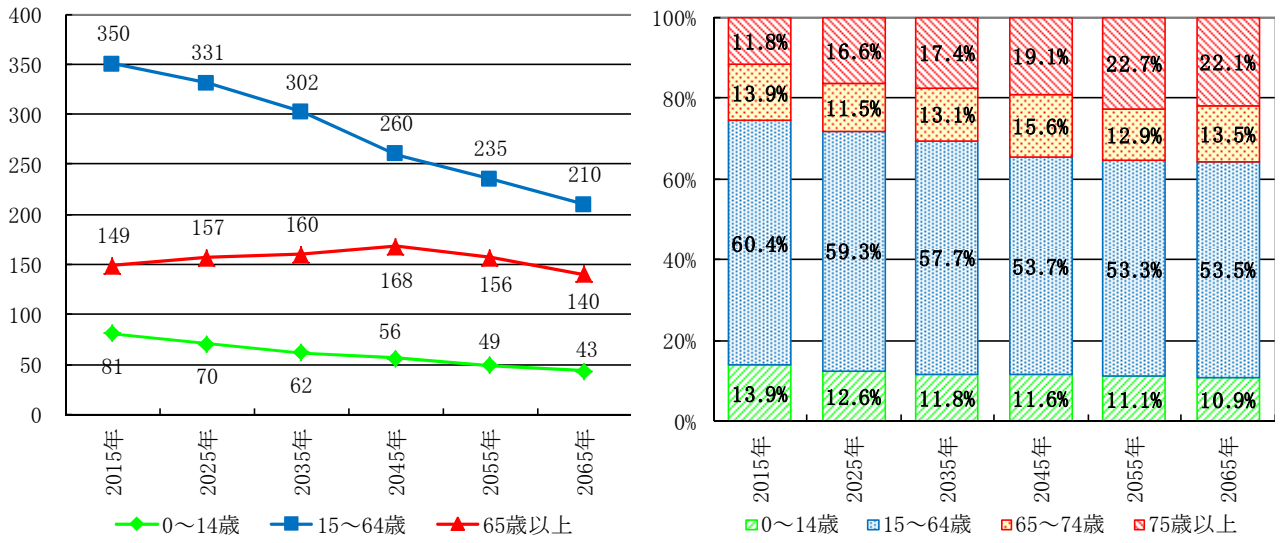
【图 12-6】北播磨



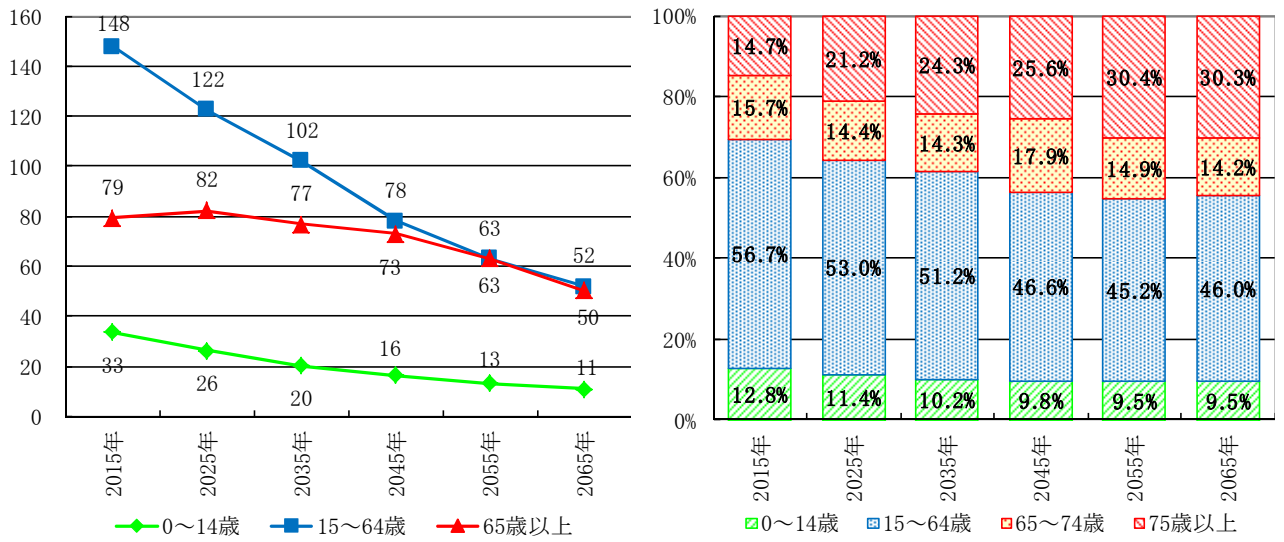
【图 12-7】播磨東 (東播磨+北播磨) 《参考》



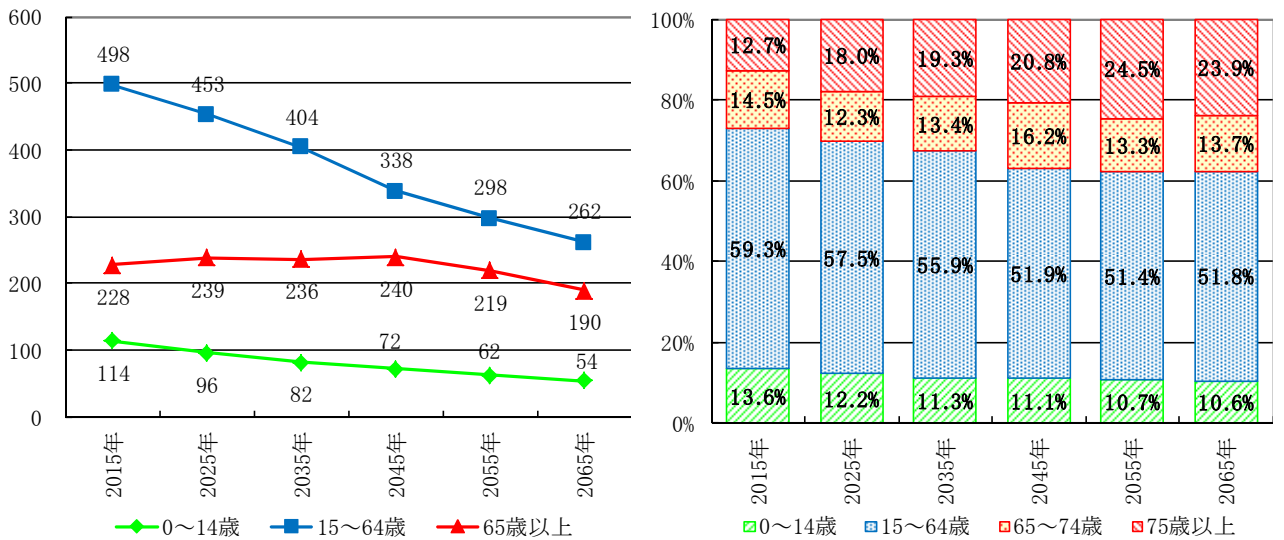
【图 12-8】中播磨



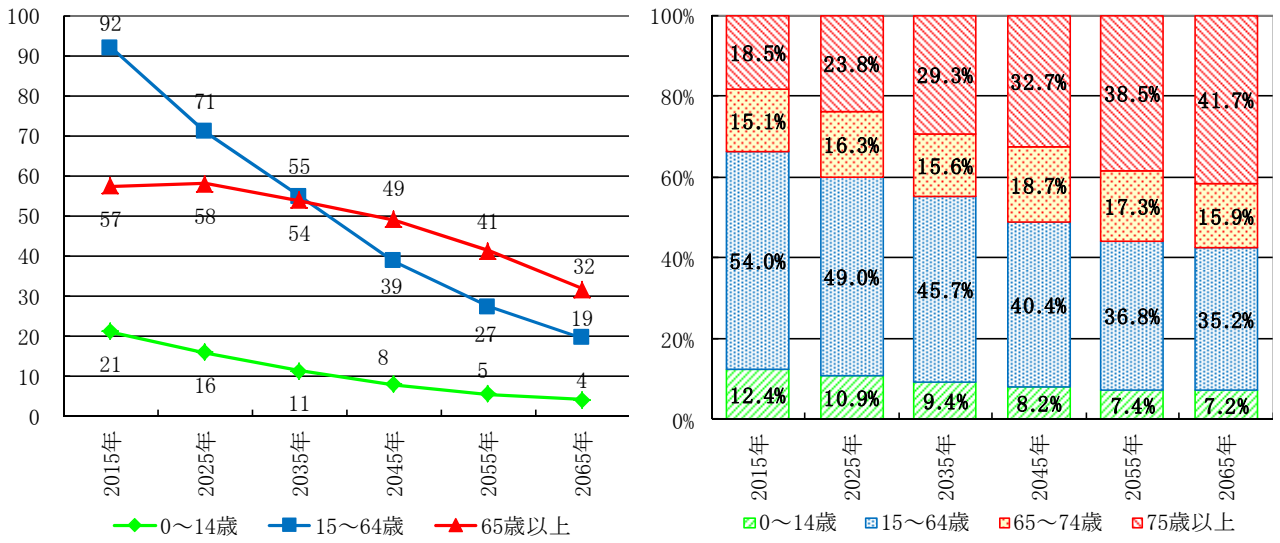
【图 12-9】西播磨



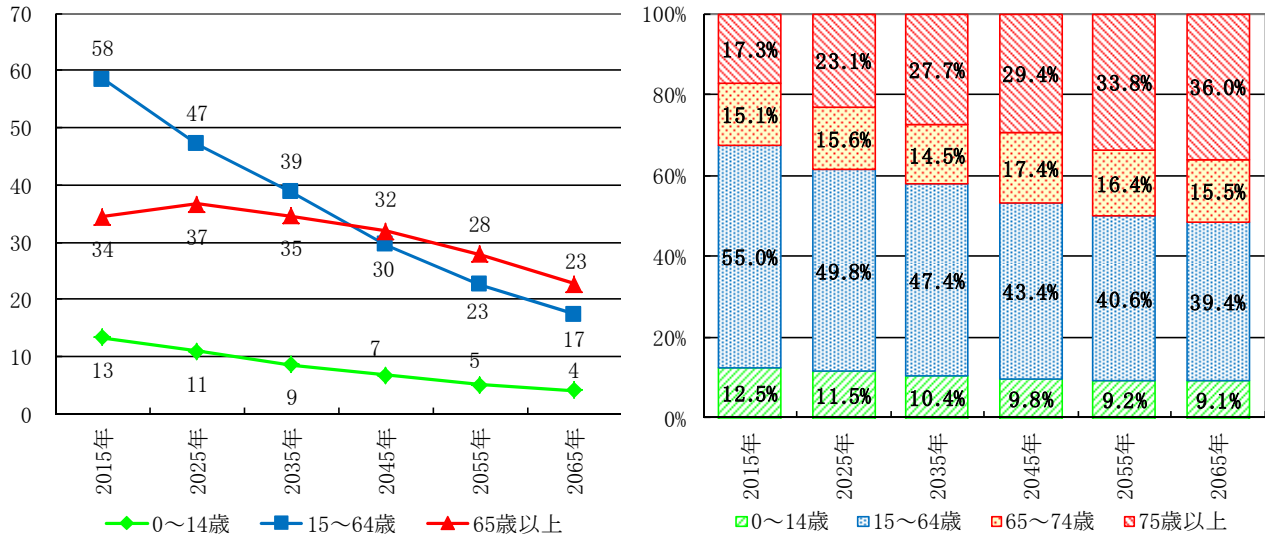
【图 12-10】播磨西（中播磨+西播磨）《参考》



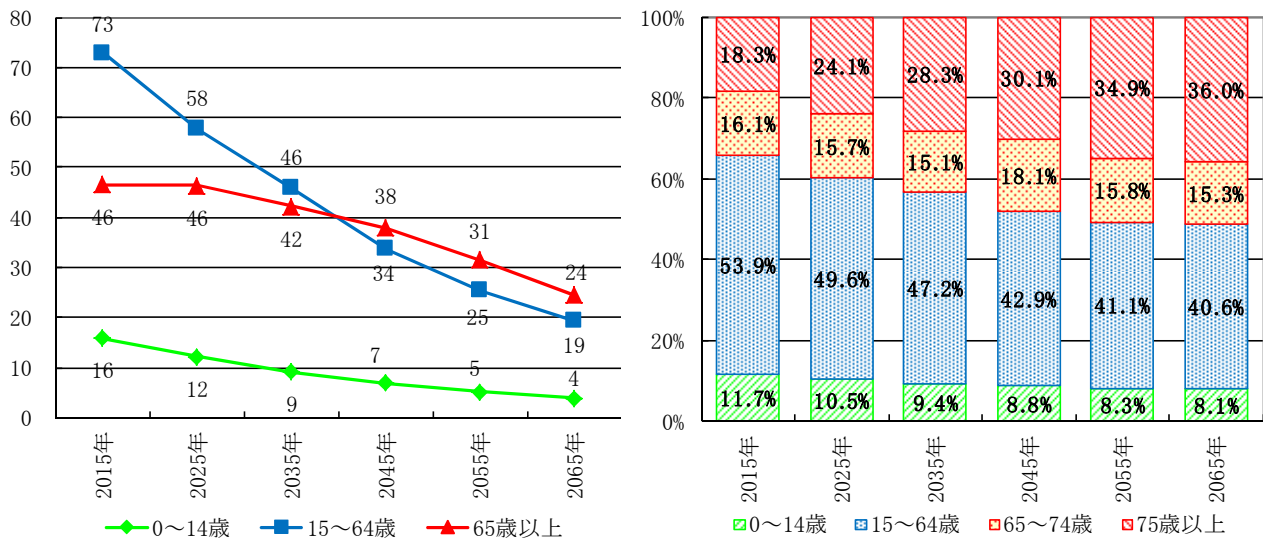
【図 12-11】 但馬



【図 12-12】 丹波



【図 12-13】 淡路

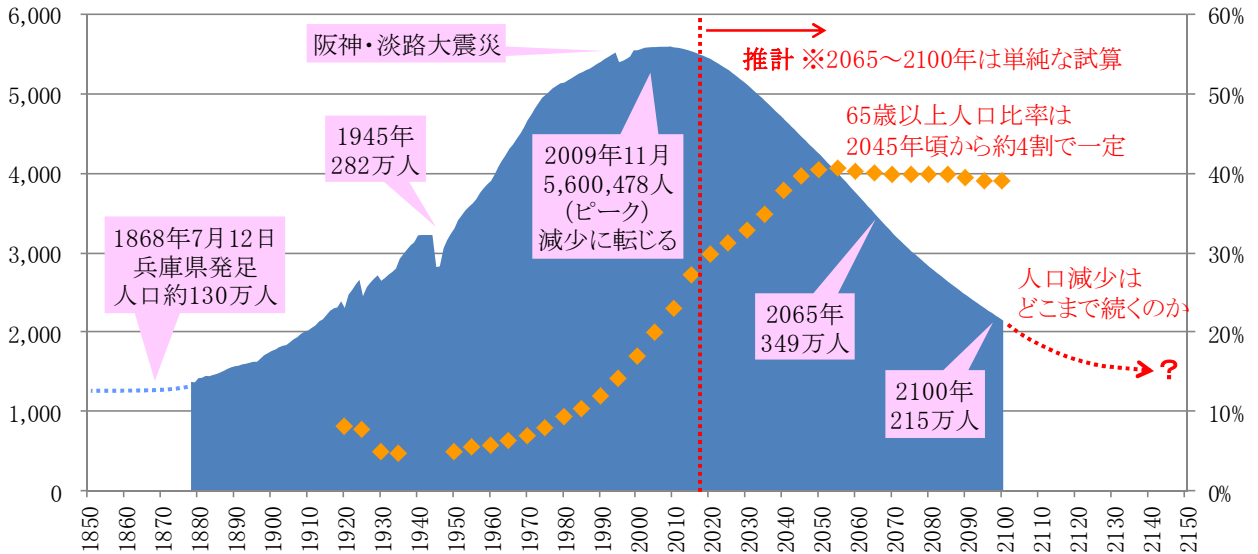


IV 参考

1 兵庫県人口の長期推移

- 1868年の兵庫県発足時の人口は約130万人。その後ほぼ一貫して増加してきた人口は2009年の560万人突破を境に減少に転じた。合計特殊出生率が人口置換水準を下回る限り人口減少は続くため、今後長期にわたって人口は減り続ける見込み【図13】。
- 単純な試算の結果ではあるが、2100年頃には約200万人まで減少する可能性がある。

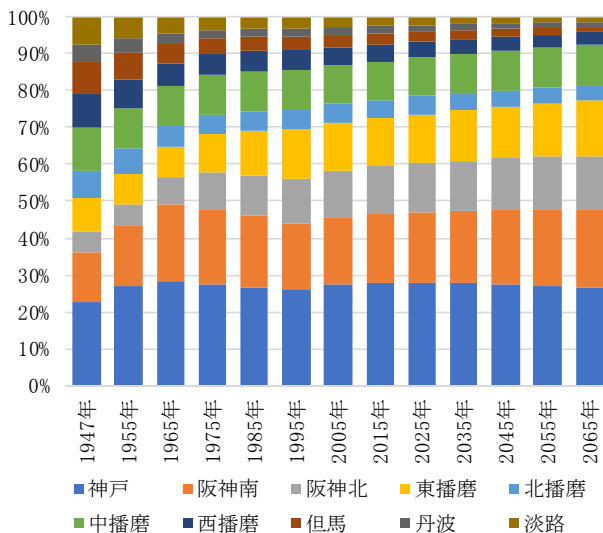
【図13】 兵庫県人口の長期推移（2020年以降は推計）



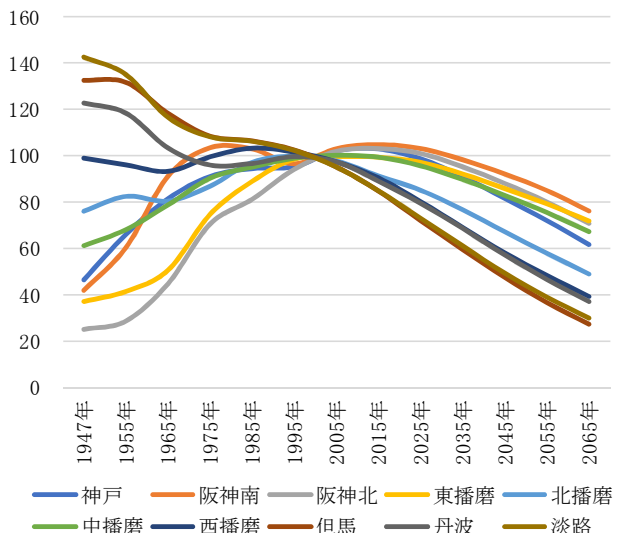
2 兵庫県内の人口の偏在化

- 発足以来増加を続けてきた県人口だが、内実は人口偏在化の歩みであった。1947年に51%だった神戸・阪神・東播磨の人口シェアは2015年に72%となっている。
- 人口の増加と減少が同時進行する段階から、人口が減少しながら偏在化する（どこも減る中で減少の速度が異なる）というこれまでとは違う局面に今後入っていく。

【図14】 県内10地域の人口シェアの推移（2020年以降は推計。図15も同じ）



【図15】 県内10地域の人口指数の変化（2000年を100とした場合）



3 合併市町の旧市町単位の人口推移

- ・「平成の大合併」により広域化した市町内の人口の動きを把握するため、合併前の市町単元に集計された国勢調査人口を活用して旧市町単位の今後の人口の推移を試算した。

二〇〇〇年以降に合併した市町の旧市町単位の人口の推移

	国勢調査人口(千人)			兵庫県将来推計人口に基づく試算(千人)						旧市町の人口シェア	
	2000年	2015年	対00年比	2025年	2035年	2045年	2055年	2065年	対15年比	2015年	2065年
西脇市	45.7	40.9	89.4%	36.9	32.4	27.7	23.2	18.9	46.4%		
(西脇市)	37.8	34.0	89.9%	30.8	27.1	23.3	19.6	16.0	47.3%	83.3%	84.7%
(黒田庄町)	8.0	6.9	86.9%	6.2	5.3	4.4	3.6	2.9	42.0%	16.7%	15.3%
三木市	86.1	77.2	89.6%	71.8	64.0	55.4	47.2	39.4	51.1%		
(三木市)	76.7	69.6	90.7%	65.2	58.5	51.1	43.9	37.0	53.2%	90.8%	93.8%
(吉川町)	9.4	7.6	80.5%	6.6	5.4	4.3	3.3	2.4	32.3%	9.3%	6.2%
北播磨											
加東市	40.7	40.3	99.1%	39.6	37.6	34.5	31.1	27.3	67.7%		
(社町)	21.5	20.5	95.0%	19.7	18.2	16.3	14.3	12.2	59.4%	49.7%	44.5%
(滝野町)	11.8	12.5	105.5%	12.6	12.4	11.8	11.0	9.9	79.7%	31.9%	36.4%
(東条町)	7.3	7.4	100.7%	7.3	7.0	6.5	5.9	5.2	70.6%	18.4%	19.1%
多可町	25.3	21.2	83.7%	17.4	13.7	10.2	7.3	4.9	22.9%		
(中町)	11.7	9.9	84.8%	8.3	6.6	4.9	3.6	2.4	24.1%	47.4%	49.3%
(加美町)	7.4	6.1	81.4%	4.9	3.7	2.7	1.9	1.2	20.2%	27.9%	25.1%
(八千代町)	6.2	5.2	84.3%	4.3	3.4	2.6	1.8	1.2	23.7%	24.8%	25.6%
姫路市	535.0	535.7	100.1%	519.1	490.1	456.0	418.0	374.1	69.8%		
(姫路市)	478.3	488.5	102.1%	475.2	450.4	420.3	386.3	346.5	70.9%	91.5%	92.6%
(家島町)	9.0	4.9	54.6%	3.9	2.9	2.1	1.5	1.0	21.3%	0.7%	0.3%
(蒙前町)	22.0	18.5	84.5%	17.4	15.8	14.2	12.7	11.1	60.0%	3.4%	3.0%
(香寺町)	19.9	18.7	94.2%	17.9	16.7	15.4	14.0	12.4	66.4%	3.5%	3.3%
(安富町)	5.8	5.0	86.0%	4.7	4.3	3.9	3.5	3.1	61.0%	0.9%	0.8%
神河町	13.5	11.5	84.8%	9.6	7.7	5.9	4.4	3.1	27.4%		
(神崎町)	8.3	7.1	85.5%	5.9	4.8	3.7	2.8	2.0	28.2%	62.1%	63.5%
(大河内町)	5.2	4.4	83.8%	3.6	2.9	2.2	1.6	1.1	26.1%	37.9%	36.6%
宍粟市	45.5	37.8	83.1%	31.2	24.9	19.0	14.1	9.9	26.3%		
(山崎町)	26.0	23.1	89.0%	19.9	16.6	13.2	10.2	7.5	32.3%	63.9%	75.0%
(一宮町)	10.6	8.1	76.4%	6.3	4.7	3.4	2.3	1.5	18.4%	20.2%	15.0%
(波賀町)	4.9	3.7	76.2%	2.9	2.1	1.5	1.0	0.7	18.0%	9.2%	6.7%
(千種町)	4.0	2.9	71.0%	2.1	1.5	1.0	0.6	0.3	11.4%	6.7%	3.3%
たつの市	83.2	77.4	93.0%	70.9	63.1	54.8	47.0	39.2	50.6%		
(龍野市)	40.6	39.7	97.8%	37.5	34.4	30.8	27.2	23.3	58.8%	52.8%	59.6%
(新宮町)	17.4	14.7	84.8%	12.8	10.6	8.6	6.8	5.2	35.2%	18.0%	13.2%
(揖保川町)	13.1	12.4	94.4%	11.4	10.2	8.9	7.7	6.5	52.3%	16.0%	16.5%
(御津町)	12.2	10.7	87.5%	9.3	7.9	6.5	5.3	4.2	39.2%	13.1%	10.7%
佐用町	22.3	17.5	78.4%	13.7	10.3	7.3	4.9	3.1	17.6%		
(佐用町)	8.8	7.1	80.4%	5.6	4.3	3.1	2.1	1.3	18.9%	40.7%	43.3%
(上月町)	5.6	4.1	73.1%	3.1	2.2	1.5	0.9	0.6	13.4%	22.4%	17.9%
(南光町)	4.6	3.6	79.4%	2.9	2.2	1.6	1.1	0.7	18.6%	21.0%	21.8%
(三日月町)	3.4	2.7	80.4%	2.2	1.7	1.2	0.8	0.5	19.2%	15.8%	16.9%
豊岡市	92.8	82.3	88.7%	72.4	61.7	50.7	40.4	30.8	37.5%		
(豊岡市)	47.3	43.4	91.7%	39.0	33.9	28.5	23.2	18.0	41.6%	53.9%	58.5%
(城崎町)	4.3	3.5	81.0%	2.9	2.3	1.8	1.3	0.9	25.9%	4.0%	3.0%
(竹野町)	5.8	4.5	78.2%	3.6	2.8	2.0	1.4	0.9	20.7%	5.0%	3.0%
(日高町)	18.4	16.6	90.2%	14.8	12.8	10.6	8.6	6.6	39.9%	20.5%	21.5%
(出石町)	11.2	10.0	89.2%	8.8	7.5	6.2	4.9	3.8	37.7%	12.1%	12.2%
(但東町)	5.7	4.3	74.2%	3.3	2.4	1.6	1.0	0.6	13.0%	4.5%	1.8%
養父市	30.1	24.3	80.7%	19.3	14.9	10.9	7.6	5.0	20.7%		
(八鹿町)	12.0	10.1	84.2%	8.2	6.5	4.9	3.5	2.4	23.5%	42.7%	47.2%
(養父町)	8.7	7.1	81.9%	5.7	4.5	3.3	2.3	1.6	21.8%	29.7%	30.9%
(大屋町)	4.8	3.5	73.8%	2.6	1.9	1.3	0.8	0.5	14.3%	13.7%	10.1%
(関宮町)	4.6	3.5	76.3%	2.7	2.0	1.4	0.9	0.6	16.9%	14.0%	11.8%
朝来市	36.1	30.8	85.4%	26.8	23.0	19.1	15.5	12.3	39.8%		
(生野町)	5.1	3.8	74.0%	2.9	2.2	1.6	1.1	0.7	19.3%	11.0%	5.9%
(和田山町)	17.1	15.5	90.8%	14.0	12.5	10.8	9.1	7.4	47.8%	52.3%	60.4%
(山東町)	6.4	5.5	86.8%	4.9	4.3	3.6	2.9	2.4	42.4%	18.3%	19.2%
(朝来町)	7.5	6.0	79.6%	4.9	4.0	3.1	2.4	1.8	29.6%	18.4%	14.5%
香美町	23.3	18.1	77.7%	14.1	10.6	7.6	5.1	3.2	17.9%		
(香住町)	14.0	11.2	80.1%	8.9	6.8	5.0	3.4	2.2	19.6%	63.0%	68.0%
(村岡町)	6.6	4.9	73.7%	3.7	2.7	1.8	1.2	0.7	14.9%	26.4%	22.5%
(美方町)	2.6	2.0	74.4%	1.5	1.1	0.8	0.5	0.3	15.7%	10.6%	9.5%
新温泉町	18.6	14.8	79.7%	12.1	9.5	7.1	5.1	3.5	23.9%		
(浜坂町)	11.2	9.2	82.2%	7.7	6.2	4.7	3.4	2.4	26.4%	63.3%	68.6%
(温泉町)	7.4	5.6	75.9%	4.4	3.4	2.4	1.7	1.1	19.9%	36.7%	31.4%
丹波市	72.9	64.7	88.7%	57.2	49.0	40.4	32.6	25.5	39.5%		
(柏原町)	9.9	9.9	99.2%	9.3	8.5	7.5	6.4	5.3	53.3%	16.3%	20.6%
(水上市町)	19.3	17.8	92.2%	16.1	14.2	12.0	9.9	7.9	44.5%	28.2%	31.0%
(青垣町)	7.4	6.0	81.2%	4.9	3.9	3.0	2.2	1.6	26.5%	8.6%	6.2%
(春日町)	12.4	10.9	88.0%	9.6	8.2	6.7	5.4	4.2	38.9%	16.8%	16.6%
(山南町)	13.7	11.3	83.1%	9.5	7.8	6.1	4.7	3.4	30.4%	16.7%	13.5%
(市島町)	10.2	8.7	85.9%	7.6	6.4	5.1	4.0	3.1	35.2%	13.3%	12.1%
洲本市	52.2	44.3	84.7%	37.5	31.1	24.8	19.3	14.4	32.5%		
(洲本市)	41.2	34.7	84.3%	29.6	24.7	19.8	15.5	11.7	33.6%	78.9%	81.1%
(五色町)	11.1	9.6	86.3%	7.9	6.4	5.0	3.7	2.7	28.4%	21.1%	18.9%
南あわじ市	55.0	46.9	85.3%	41.0	34.9	28.6	23.1	18.2	38.8%		
(緑町)	6.2	5.9	96.4%	5.6	5.1	4.4	3.8	3.2	53.3%	13.6%	17.4%
(西淡町)	12.5	9.9	78.7%	8.1	6.5	5.0	3.8	2.8	28.3%	19.8%	15.3%
(三原町)	16.6	15.2	91.3%	13.8	12.3	10.5	8.8	7.2	47.4%	33.8%	39.5%
(南淡町)	19.7	16.0	81.1%	13.4	11.0	8.7	6.7	5.0	31.6%	32.8%	27.7%
淡路市	51.9	44.0	84.8%	37.7	31.3	25.1	19.8	15.1	34.4%		
(津名町)	16.8	15.0	89.2%	13.2	11.3	9.4	7.6	6.0	39.9%	35.1%	39.5%
(淡路町)	6.8	5.3	77.4%	4.3	3.3	2.5	1.8	1.3	24.2%	11.3%	8.5%
(北淡町)	10.2	7.9	76.9%	6.4	4.9	3.7	2.6	1.8	23.5%	16.9%	12.2%
(二宮町)	9.2	7.4	79.9%	6.1	4.8	3.7	2.8	2.0	27.0%	16.1%	13.2%
(東浦町)	8.8	8.5	96.2%	7.8	6.9	5.9	5.0	4.0	47.5%	20.6%	26.6%

兵庫県の将来人口・外国人の動き等について

図1 2015-2050の県内市町別人口変化率

西播磨・但馬を中心に2015年比で6割以下に減少。一部市町では4割を下回る

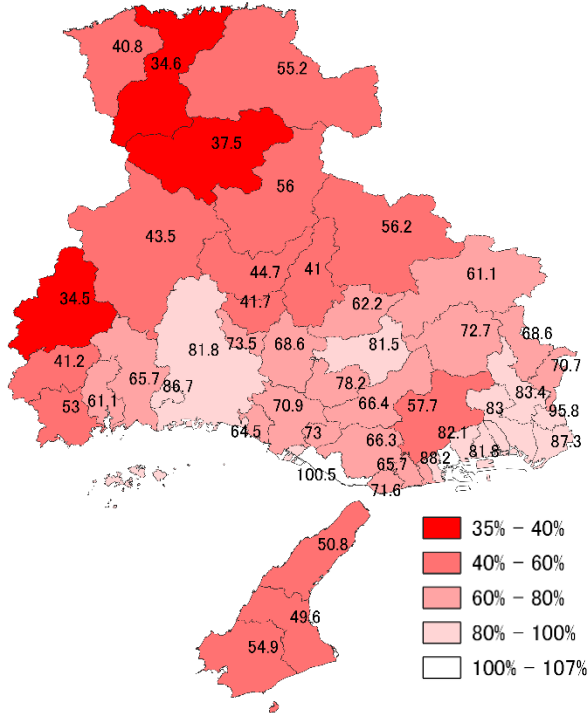


図2 2050年の県内市町別75歳以上人口割合

22市町で3割を超え4割超も5市町に上る

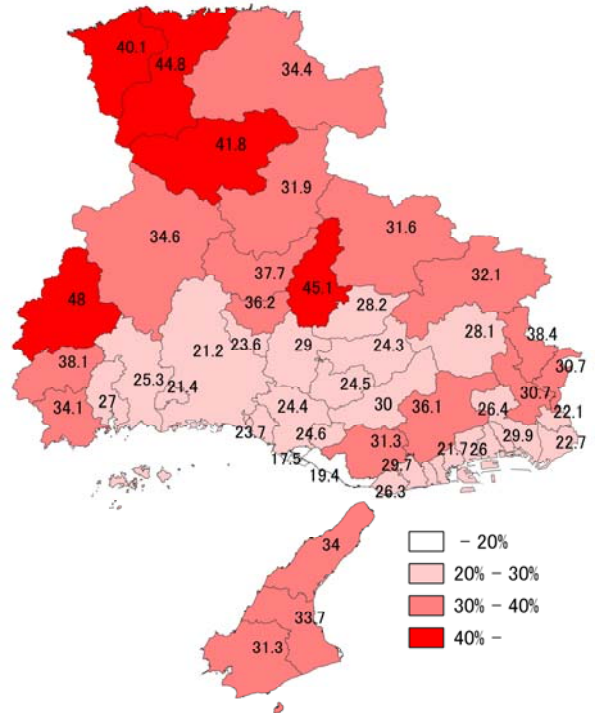


図3 2050の県内市町別年少人口割合

西播磨・但馬地域を中心に6%以下に減少

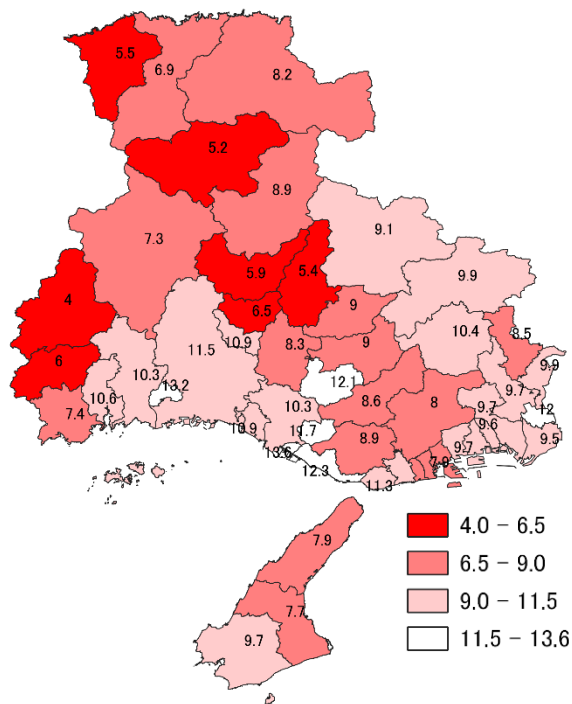


図4 2050年の県内市町別生産年齢人口割合

西播磨・但馬地域を中心に3割程度に減少

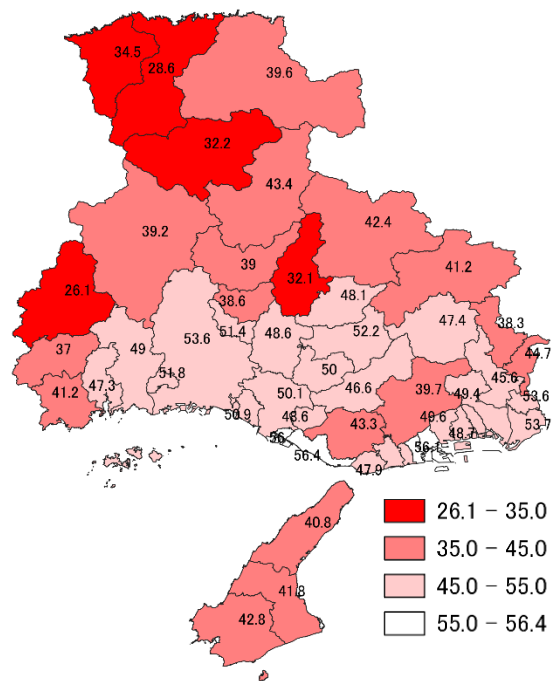


図5 2020年に無人化する区域(1kmメッシュ)

2015年からの5年間で県内68区域で無人化

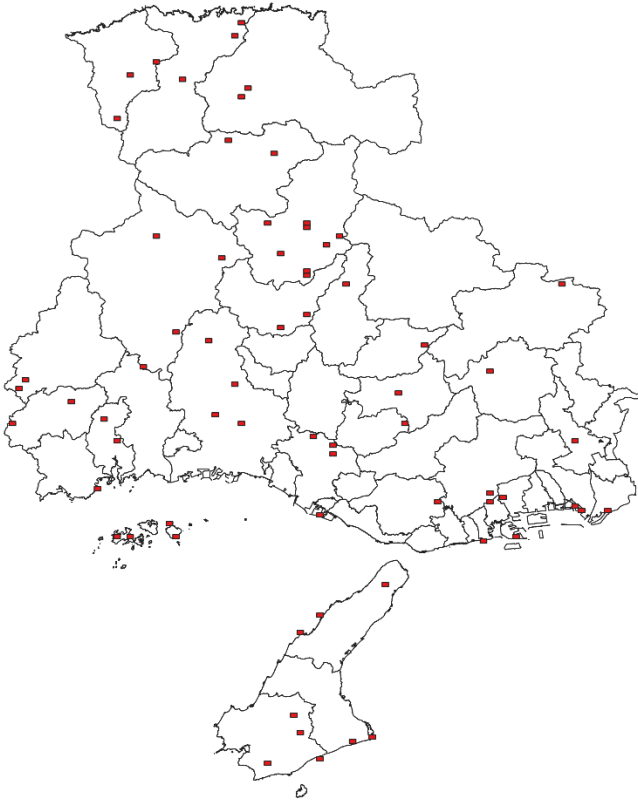


図6 2050年に無人化する区域(1kmメッシュ)

西播磨・但馬・北播磨地域を中心に522区域で無人化

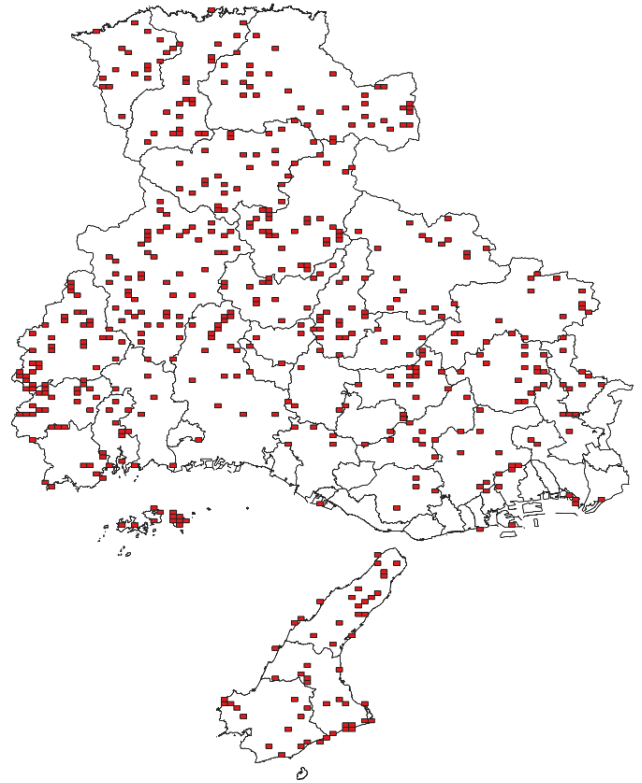


図7 2014-2019の外国人増加率

加東市が185%増、神河町が104%増など、北播磨、丹波、淡路の増加が顕著

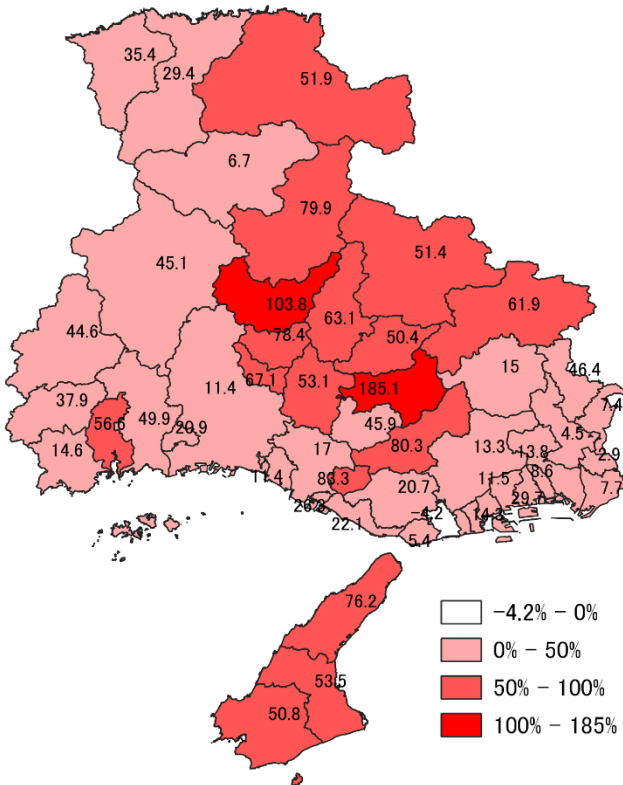
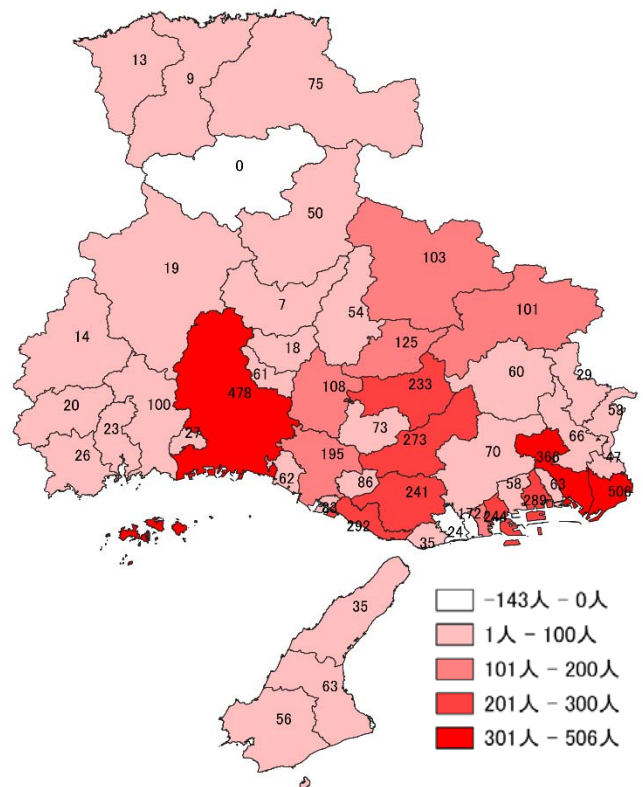


図8 2018.6-2019.6の外国人増加数

尼崎市・姫路市・西宮市が300人以上の増加。そのほか、東播磨、北播磨で増加が顕著



兵庫県 市町別在留外国人

単位:人

	2015.6	2016.6	2017.6	2018.6	2019.6
兵庫県	97,043	99,938	103,505	107,708	112,722
神戸市	43,736	45,335	46,831	48,612	49,554
東灘区	5,018	5,317	5,708	6,037	6,326
灘区	4,270	4,513	4,607	4,689	4,747
兵庫区	4,435	5,120	5,581	6,186	6,358
長田区	7,207	7,193	7,275	7,340	7,197
須磨区	3,643	3,588	3,599	3,596	3,572
垂水区	2,597	2,632	2,652	2,691	2,726
北区	1,995	2,000	2,082	2,143	2,213
中央区	12,107	12,452	12,749	13,182	13,426
西区	2,464	2,520	2,578	2,748	2,989
阪神南地域	18,772	19,115	19,362	19,730	20,665
尼崎市	10,985	11,135	11,256	11,333	11,839
西宮市	6,224	6,389	6,520	6,755	7,121
芦屋市	1,563	1,591	1,586	1,642	1,705
阪神北地域	8,580	8,516	8,646	8,853	9,108
伊丹市	3,153	3,122	3,094	3,207	3,254
宝塚市	2,969	2,915	3,040	3,067	3,133
川西市	1,254	1,235	1,249	1,291	1,344
三田市	1,055	1,091	1,100	1,115	1,175
猪名川町	149	153	163	173	202
東播磨地域	7,183	7,394	7,588	7,924	8,642
明石市	2,959	3,042	3,138	3,322	3,614
加古川市	2,467	2,516	2,573	2,658	2,853
高砂市	1,076	1,091	1,083	1,116	1,178
稲美町	298	345	374	407	493
播磨町	383	400	420	421	504
北播磨地域	3,571	3,810	4,515	5,210	6,076
西脇市	413	414	428	487	612
三木市	1,069	1,137	1,276	1,420	1,693
小野市	566	572	685	798	871
加西市	739	774	842	1,077	1,185
加東市	617	737	1,114	1,221	1,454
多可町	167	176	170	207	261
中播磨地域	10,635	10,926	11,213	11,530	12,094
姫路市	10,163	10,381	10,626	10,863	11,341
神河町	31	36	39	46	53
市川町	72	95	101	114	132
福崎町	369	414	447	507	568
西播磨地域	1,651	1,746	1,857	2,004	2,233
相生市	340	395	436	478	501
たつの市	381	409	455	489	589
赤穂市	328	338	352	342	368
宍粟市	174	168	171	232	251
太子町	222	219	234	233	260
上郡町	103	109	100	111	131
佐用町	103	108	109	119	133
但馬地域	1,025	1,103	1,229	1,346	1,493
豊岡市	520	560	643	695	770
養父市	105	105	105	112	112
朝来市	197	225	252	290	340
香美町	110	117	112	132	141
新温泉町	93	96	117	117	130
丹波地域	1,178	1,238	1,387	1,569	1,773
丹波篠山市	486	523	593	697	798
丹波市	692	715	794	872	975
淡路地域	712	755	877	930	1,084
洲本市	235	228	272	264	327
南あわじ市	262	299	333	345	401
淡路市	215	228	272	321	356

兵庫県 市町別在留外国人(2019.6)

単位:人

	総数	中国	韓国	ベトナム	フィリピン	ブラジル	ネパール	台湾	インドネシア	米国	タイ	その他
兵庫県	112,722	23,983	39,145	19,956	4,979	2,503	1,741	2,232	1,575	2,375	981	13,252
神戸市	49,554	13,660	16,017	7,294	1,381	454	944	1,433	413	1,250	325	6,383
東灘区	6,326	1,365	1,341	952	278	169	410	171	73	333	41	1,193
灘区	4,747	1,426	1,406	467	114	29	67	151	64	233	31	759
兵庫区	6,358	2,016	1,313	2,008	111	15	99	120	92	50	33	501
長田区	7,197	771	4,137	1,613	90	23	18	61	38	31	13	402
須磨区	3,572	434	2,310	168	83	29	20	63	20	88	13	344
垂水区	2,726	807	1,047	82	108	23	55	54	29	99	32	390
北区	2,213	410	948	148	77	89	27	103	26	76	18	291
中央区	13,426	5,670	2,581	1,279	311	52	230	653	47	297	120	2,186
西区	2,989	761	934	577	209	25	18	57	24	43	24	317
阪神南地域	20,665	3,448	10,251	2,104	724	318	291	368	145	467	174	2,375
尼崎市	11,839	1,772	6,513	1,330	411	155	131	165	76	116	83	1,087
西宮市	7,121	1,315	3,142	709	217	118	141	152	52	257	62	956
芦屋市	1,705	361	596	65	96	45	19	51	17	94	29	332
阪神北地域	9,108	1,395	4,456	887	312	238	169	133	138	240	81	1,059
伊丹市	3,254	535	1,681	366	87	70	55	29	33	31	24	343
宝塚市	3,133	380	1,647	195	114	119	42	68	44	104	23	397
川西市	1,344	212	661	88	37	22	50	14	33	62	16	149
三田市	1,175	247	385	190	66	22	18	20	28	36	15	148
猪名川町	202	21	82	48	8	5	4	2	0	7	3	22
東播磨地域	8,642	1,466	2,612	1,570	839	468	126	106	198	118	108	1,031
明石市	3,614	773	1,091	583	266	160	47	57	69	70	54	444
加古川市	2,853	455	850	457	313	202	71	36	60	31	34	344
高砂市	1,178	100	532	186	120	39	6	5	25	10	8	147
稲美町	493	49	46	200	70	14	1	7	41	1	10	54
播磨町	504	89	93	144	70	53	1	1	3	6	2	42
北播磨地域	6,076	907	616	2,589	354	549	50	45	156	36	61	713
西脇市	612	68	154	240	48	15	13	2	6	6	5	55
三木市	1,693	256	246	432	112	219	22	13	34	12	37	310
小野市	871	57	110	325	67	114	6	21	38	7	4	122
加西市	1,185	285	49	560	36	107	5	2	32	6	9	94
加東市	1,454	155	45	932	42	90	4	6	42	3	6	129
多可町	261	86	12	100	49	4	0	1	4	2	0	3
中播磨地域	12,094	1,811	4,331	3,606	580	115	92	56	224	107	99	1,073
姫路市	11,341	1,471	4,305	3,394	557	105	73	56	178	102	85	1,015
神河町	53	8	2	17	4	6	7	0	0	1	5	3
市川町	132	43	7	42	12	0	0	0	6	2	0	20
福崎町	568	289	17	153	7	4	12	0	40	2	9	35
西播磨地域	2,233	384	481	592	192	62	16	20	87	50	49	300
相生市	501	72	169	120	41	4	2	0	10	7	0	76
たつの市	589	109	77	170	24	13	9	7	52	15	9	104
赤穂市	368	69	101	57	48	27	3	4	0	12	6	41
宍粟市	251	80	19	65	29	6	1	2	0	15	5	29
太子町	260	16	72	84	17	8	1	2	16	0	14	30
上郡町	131	9	27	51	31	1	0	0	2	0	0	10
佐用町	133	29	16	45	2	3	0	5	7	1	15	10
但馬地域	1,493	345	111	353	271	22	30	41	167	42	32	79
豊岡市	770	172	74	184	149	7	17	35	54	19	29	30
養父市	112	43	7	15	24	0	0	3	8	8	0	4
朝来市	340	74	15	88	69	15	13	3	36	9	3	15
香美町	141	20	8	47	27	0	0	0	21	5	0	13
新温泉町	130	36	7	19	2	0	0	0	48	1	0	17
丹波地域	1,773	382	134	616	188	259	12	5	18	29	20	110
丹波篠山市	798	68	72	283	99	179	12	3	4	15	15	48
丹波市	975	314	62	333	89	80	0	2	14	14	5	62
淡路地域	1,084	185	136	345	138	18	11	25	29	36	32	129
洲本市	327	55	51	97	56	6	4	9	4	12	4	29
南あわじ市	401	80	36	157	42	12	0	5	18	11	1	39
淡路市	356	50	49	91	40	0	7	11	7	13	27	61

兵庫県 在留資格別外国人数

単位:人

年		2015.6	2016.6	2017.6	2018.6	2019.6	
総数		97,043	99,938	103,505	107,708	112,722	
在留資格	該当例						
就労が認められる	教授	大学教授等	227	229	228	210	207
	芸術	作曲家, 画家, 作家等	7	5	4	7	6
	宗教	外国の宗教団体から派遣される宣教師等	352	346	351	337	346
	報道	外国の報道機関の記者, カメラマン等	-	-	-	-	-
	高度専門職	高度な研究、技術、経営活動を行う者(修士号・博士号取得等により優遇措置のある在留資格)	5	37	99	156	188
	経営・管理	企業等の経営者, 管理者等	406	479	533	589	594
	法律・会計業務	弁護士, 公認会計士等	-	-	-	-	-
	医療	医師, 歯科医師, 看護師等	37	47	55	68	99
	研究	政府関係機関や企業等の研究者等	83	74	68	67	72
	教育	高等学校, 中学校等の語学教師等	541	551	559	596	630
	技術・人文知識・国際業務	機械工学等の技術者等、通訳、デザイナー、語学講師等	3,119	3,566	4,122	5,058	6,503
	企業内転勤	外国の事務所からの転勤者	338	347	328	352	430
	介護	介護福祉士				3	28
	興行	俳優, 歌手, プロスポーツ選手等	64	60	72	64	79
	技能	外国料理の調理師, スポーツ指導者等	876	900	920	840	870
	特定技能1号	特定産業分野に属する相当程度の知識又は経験を要する技能を要する業務に従事する外国人					5
	特定技能2号	特定産業分野に属する熟練した技能を要する業務に従事する外国人					-
技能実習	技能実習生	5,354	6,271	7,801	9,257	12,051	
就労の可否は指定される活動による	特定活動	外交官等の家事使用人, ワーキングホリデー等	542	655	839	915	1,016
原則として就労が認められない	文化活動	日本文化の研究者等	81	81	84	89	65
	留学	大学, 専門学校, 日本語学校等の学生	6,931	8,477	9,523	11,130	11,398
	研修	研修生	17	24	28	27	19
	家族滞在	就労資格等で在留する外国人の配偶者, 子	3,840	4,060	4,371	4,832	5,254
身分・地位に基づく在留資格	永住者	永住許可を受けた者	22,933	23,659	24,284	24,853	25,523
	日本人の配偶者等	日本人の配偶者・実子・特別養子	4,177	4,113	4,149	4,116	4,121
	永住者の配偶者等	永住者・特別永住者の配偶者, 我が国で出生し引き続き在留している実子	883	909	981	1,086	1,092
	定住者	日系3世, 外国人配偶者の連れ子等	4,223	4,154	4,353	4,368	4,467
	特別永住者	第2次世界大戦終戦前から引き続き居住している在日韓国人・朝鮮人・台湾人およびその子孫	42,007	40,894	39,753	38,688	37,659